

令和 3 年度
日野市中央公民館の
運営の状況に関する評価書
(令和 2 年度事業)

市民の暮らしに寄り添いながら
市民のつながりの中に“学び”を生み出す

令和 3 年 9 月
日野市中央公民館

目 次

1. はじめに	1
2. 評価の目的	1
3. 公民館の現状	1
(1) 施設	1
(2) 貸室利用状況（令和2年度）	2
(3) 組織・職員	2
(4) 主な業務	2
4. 評価の実施方法	2
5. 評価の対象	2
6. 評価の結果	3
公民館運営審議会の総評	3
公民館の自己評価	5
7. 評価表	9

資料

I 公民館事業のあらまし	23
II 日野市中央公民館の運営状況の評価実施要綱	58
III 公民館運営審議会委員名簿（第28期）	59

参考

令和元年度、令和2年度講座等参加人数	60
--------------------	----

1 はじめに

平成 20 年 6 月に「社会教育法」が改正され、運営の状況に関する評価等として、「公民館は、当該公民館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき公民館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。」とされました。また、これに先駆けて平成 15 年には、公民館の設置及び運営に関する基準において「公民館は、事業の水準の向上を図り、当該公民館の目的を達成するため、各年度の事業の状況について、公民館運営審議会等の協力を得つつ、自ら点検及び評価を行い、その結果を地域住民に対して公表するよう努めるものとする。」とされてきたところです。

これらを受け、公民館では平成 21 年 3 月 31 日に、「日野市中央公民館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、平成 21 年度から公民館の運営状況に関する評価を実施することにしました。

2 評価の目的

この評価は、公民館の運営の状況に関する情報を積極的に提供することにより、市民・利用者やその他の関係者との理解を深めるとともに、連携及び協力の推進に資するため、そして、効果的で市民・利用者に信頼される公民館事業を推進することを目的に行います。

この目的遂行のため、公民館は毎年 1 回、運営状況について評価を行い、その評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出するとともに、市民に公表することとします。

そして、評価結果に基づき公民館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。

3 公民館の現状

(1) 施設

名 称	延べ床面積	開 館 日	所 在 地
中央公民館	704 m ²	昭和 41. 7. 1	日野本町 7-5-23
中央公民館高幡台分室	953 m ²	平成 16. 4. 21	程久保 550 教育センター内

(2) 貸室利用状況（令和2年度）

名 称	部屋の名称	年間利用者数
中央公民館	実習室、ホール、視聴覚室、小会議室、 講座室A・B、調理実習室、保育室	13,445 人
中央公民館高幡台分室	講座室1～6、実習室、和室	11,259 人

(3) 組織・職員 ※令和3年3月31日現在

2 係（管理係・事業係）

正規職員 6 人

再任用職員 2 人

臨時職員 2 人

嘱託職員（コミュニティワーカー） 1 人

(4) 主な業務

- ・ 公民館運営全般
- ・ 公民館活動（成人・高齢者・青少年対象の講座等）の企画運営
- ・ 公民館関係資料の収集、保存及び作成
- ・ 公民館施設の貸し出し管理等

4 評価の実施方法

評価を行うにあたっては、社会教育法で設置が謳われている公民館長の諮問機関である第28期公民館運営審議会委員の意見を伺いながら行いました。本評価は施策評価であるため、事業別の評価資料を作成した上で、それに基づき公民館運営審議会委員に課題・問題点と評価の提起をいただき、評価を総括いたしました。

5 評価の対象

評価の対象は、「令和2年度中央公民館基本方針」にある3つの基本目標から各施策9項目、及び重点施策5項目を対象といたしました。

(1) 基本方針

第2次日野市公民館基本構想・基本計画～市民の暮らしに寄り添いながら市民のつながりの中に「学び」を生み出す～目指す姿とし、基本計画に基づいて事業を展開する。公民館が市民にとって自由で民主的な学びの場として機能させるために諸条件の整備・充実をすすめる。

市民がまなびの主体であると同時に、まなびを作り広げる主体として、

公民館事業に生き生きと参加・参画できるように、各種事業を企画・運営し、情報提供や相談業務などの充実を目指す。

(2) 基本目標と施策

① ～市民の日常生活に寄り添って～

豊かな暮らしをつくる「学び」を生み出す

- ・市民の暮らしに寄り添った学びの循環づくり
- ・「学び、学びあい」による生きがいづくり

② ～誰一人取り残さずに～

「学び」に集う人たちを地域や社会につなぐ

- ・地域をステージに、自ら考え、ともに行動する学びを実現する
- ・地域の社会的資源を生かし、学びを通して暮らしの課題解決を支援する
- ・暮らしと地域に結びついた安全安心な社会をつくる

③ ～まちの未来に向かって～

世代をこえて新たにつながる「学び」を創り出す

- ・子どもから大人まで切れ目のない学びを創造する
- ・平和な暮らしと社会を支える意識を育み、未来につなぐ
- ・さまざまな地域資源や学習の機会・場の情報共有を充実させる
- ・まちの自然・歴史・文化に親しみ、多世代間で知恵を交流する

(3) 重点施策

- ① 地域の特性を生かした学びの場の充実（学びの種をまく）
- ② 開かれた学びの提供、緩やかなつながりの創出（交流の種をまく）
- ③ 第2次基本構想・基本計画の推進
- ④ 公民館未利用者へのアプローチを図る
- ⑤ 市民のつながりの中に、対話的、自律的、体験的な学びの循環を創り出す

6 評価の結果

《公民館運営審議会からの総評》

3つの基本目標と9つの施策、及び重点事業5項目について、公民館運営審議会各委員からの意見を、各「評価表」にまとめた。

全体的にみて、コロナ禍での公民館としての取り組みを、コロナ終息後における公民館のあり方にどれだけつなげられるかが重要である。特に、ポストコロナ社会を見据えて、コロナ禍においても学びの種をどれだけ広く蒔くことができたかが問われてくる。具体的には、どのような市民を対象に学ぶ機会を創出したい

事業であるのか、そもそも何のための事業であるのかなど、新型コロナウイルスの影響が各事業の目的を再考するきっかけになれば、ポストコロナ社会における公民館の存在価値を高めることにもつながると考えられる。

例えば、公民館への来館が日常となっていた市民にとって、コロナによる臨時休館や事業中止等は、学びだけでなく、心身の健康にも大きな影響を与えてしまいかねない問題である。こうした事態をいかに受け止め、学びの条件整備を軸に対処していくかは大きな検討課題と思われる。その中で、コロナ禍での健康自体をテーマに据えた講座が企画されたことは、市民の実際生活に寄り添う公民館の姿勢として評価される。

特に、中央公民館の今年度の取り組みの姿勢は、コロナ禍で休館と再開を繰り返しながらも、市民の生涯にわたる学びの機会を保障しようとし続けており、そうした思いは社会教育機関の使命を考えると大変重要なことである。

その中で、職員のオンラインスキルの習得への取り組みや、中央公民館のオンライン設備の環境整備などは、コロナ終息後へつながる課題解決に向けた大きな挑戦である。そうしたツールの使い方を市民に対して丁寧にサポートするなど、市民の新たな学び方をエスコートしていこうとする姿勢を感じることができた。

今年度は、第2次基本構想・基本計画の5年間の初年度である。事業開発期間として位置づいている項目について、コロナ禍だからこそ、具体的な計画の構想をどこまで進めることができたか、また、事業の本来の目的について焦点化することができたかが重要である。計画の周知のみに注力するのではなく、計画を実行する具体的なプロセスを2年度以降に向けて進めていくことを望む。

令和2年度の主な取り組み事例については以下のとおりである。

- コロナにより対面での交流が難しい中で、オンラインを通じた公民館まつりを実現できたことは、中央公民館の歴史に残る大きな出来事であったといえる。
- オンラインツールを用いた講座等が積極的に実施される中、オンラインツール自体を学ぶ講座が市民の声を受けて企画された。対面型の参加者層との違いや重なりを捉えて、新たな来館につながることを期待したい。
今後は、オンラインを単なる代替手段とするのではなく、公民館を市民に届ける新たなツールとして位置づけて、未利用者への新たなアプローチの模索を期待する。
- 高齢者等からも関心の高いスマホの使い方等に関して学び合いを組織化していく流れが、公民館の施設・設備としてのWi-Fi環境等が整備されたことにより、更なる相乗効果をもたらすことが期待される。
- 学びモデル事業として、自治会や関係団体との連携に基づく公民館事業が展開された点は評価される。コロナ禍においても地域に根差した公民館の運営を進めるうえで、事業実施等を通して、地域の諸団体との連絡や調整を密にするこ

とが求められる。

- 安心・安全な地域社会をつくるうえで、防災や防犯は基本的な事項であるが、コロナ禍においては感染症に対する科学的な知識の獲得や差別・偏見のない社会づくりこそ、安心・安全のための重要な課題であったようにも捉えられる。専門機関等と連携し、安心・安全を多角的に捉えた学びを保障できるとよい。
- 公民館における学習の本質でもある憲法学習の機会を創出し、座学とオンラインを組み合わせ実施することができた。講座開催前に、オンラインツールを使えるよう、事前学習の機会を準備した点は、学びのための条件整備の働きかけであり、社会教育機関としての根幹をなす姿勢であるといえる。
- 自分の暮らす地域の歴史や、そこにはない他地域の資源を学ぶことを通して、日々の生活を捉えなおす機会を得ることができる。公民館としては、他機関と連携することで、歴史や文化に関する専門的な学びを、その人自身の实际生活における日常的な学びにつなげていく仕掛けを考えることが重要になってくる。
- 季節の移ろいを感じながら、様々な世代や関心のある人々に向けた多様な事業が幅広く展開された。講座や事業の実施方法にあわせて、コロナ対策も実施された。熱中症等にも注意をしつつ、地域に繰り出していく屋外型事業を一層充実させることも、ポストコロナの公民館の形になるかもしれない。

《公民館の自己評価》

令和2年度中央公民館事業は、施策9項目及び重点施策5項目を踏まえ、事業数として89事業（コロナにより中止したものも含め）を展開した。

公民館主催事業の参加人数は延べ6,353人、中央公民館施設利用者数延べ13,445人、高幡台分室施設利用者延べ11,259人となり、年間で延べ31,057人が公民館事業に関わったという結果となった。コロナ禍による臨時休館、公民館主催事業にいたっては中止せざる負えない状況が続き、サークルへの貸室利用の自粛及び定員の半分での貸し出しを促したため、昨年度を下回る実績数値となった。

令和2年度については、年度当初より新型コロナウイルス感染拡大により、緊急事態宣言が発令され臨時休館、各主催事業の中止、また、年度中に於いても、第2次緊急事態宣言が発令されたことにより、事業の中止や順延、公民館の貸館業務にも支障をきたし、市民の学び舎としての機能が失われ、社会教育そのものの在り方も問われた一年であった。

「学びを止めない」。コロナの状況を注視しながら、今、公民館ができること、公民館でできることを、職員と知恵を出し合い、前向きに取り組み、その成果として、新しい生活様式に合わせた「新しい学びのカたち」を模索し、少しずつ

つでも成果につなぐ道しるべを見い出した。それが、オンライン環境整備に伴う新たな学びの場の創造であった。途絶えさせなかった「第33回公民館まつり」「第14回ひのっ子シフコンテスト」の開催などが一例である。また、公民館サークル活動においては、市民が自らの学びの機会を失い、生活の中の潤いが閉ざされた状況下で、サークルや公民館利用者に向けて、今、何ができるかを職員らが考え、市民とともにこのコロナ禍を乗り越える、Withコロナの取り組みを模索し実践してきた。一例として、職員の提案により、臨時休館中の対応の一つとして、公民館利用者宛てにお便りを作成し郵送することにより、市民とのつながりを大切に育むことができた。また、オンラインでの講座開催などを検討し、市民が家庭に居ながらも、学びの機会が滞ることのないような方法を検討し実践した。

6月には臨時休館が明け、公民館再開にあたって、各サークルに公民館利用に際しての注意事項を丁寧に説明し、現在の悩み事や心配事、休館中の生活状況など、安心して利用ができるよう職員と利用者間で対話をする機会を設け、活動の再開を個々のケースに応じて対応した。開館後において、改めて公民館と利用者間に絆が生まれ、公民館活動の中で共に新型コロナウイルス感染を防いでいくための協力を得ることができた。このような何気ない活動から、多くの市民の思いや学習への要望などを知る機会を得ることができた。

令和2年度の特徴的な公民館事業の成果として

○オンライン環境を活用した新たな学びの場の創出

○地域の人材・拠点等の地域資源を活用した身近な学びの場の創出

○公民館サークルと一体となり、講座を企画、運営する機会の創出

この3つをあげておきたい。これらの事業は、公民館職員によるコーディネート力、企画力、さらに、地域人材とのつながりを深め、新しい学びのカタチを追究した成果となった。日野市の公民館らしさを生かした、独自性のある企画を創出することができた。今後も継続性を持たせて展開をしていく。

以下、事例紹介

・第33回公民館まつり with コロナ（オンライン）
～オンラインを活用した出会い・ふれあい・学び合い～



・私たちの暮らしと憲法（オンライン併用）

公民館講座
わたしたちの暮らしと憲法

憲法がわたしたちの暮らしや社会生活にどのように関わっているのかを事例を通してともに考えていきます。
なお、本講座については予備知識の必要はありません。
Zoom形式での参加も希望される方は事前にZoom参加リンクをいただきますのでご確認ください。
・暮らしの中の憲法～身近な事例を題材に 高松智恵氏（香川県立大学准教授）
・憲法の役割を暮らしの中から考える 中川 康氏（南山大学准教授）

期 間
① 10/30（土）Zoom 無料研修
② 11/14（土）高松市
③ 11/28（土）宇治市

時 間
14:00～18:00
② Zoom 無料研修は 14:00～15:00

第 二 講
中央公民館（中央館） 豊田 正典氏
② Zoom 無料研修は 高松市公民館

問い合わせ先
300（土）午前9時から電子申請システム及び電話または来館
※ 会場参加は電話または直接公民館に申し込んでください。
中央公民館（電話）7580 高松市分館（電話）20664

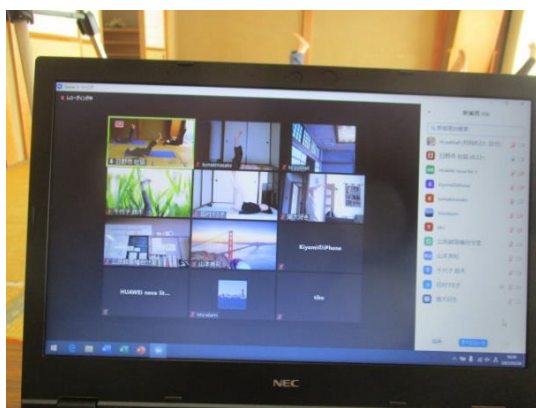
開催場所
高松市公民館・高松市立中央公民館
定 員 40名（内30名はZoom参加者）
費 用 無料
Zoom 参加は QRコードにアクセスしてください。

公民館講座
わたしたちの暮らしと憲法 全2回
11/14（土）
11/28（土）
Zoom併設

第14回ひのっ子シェフコンテスト



- ・からだいきいき～ヨガ入門（オンライン）



0

公民館講座

「からだいきいき～ヨガ入門」Zoom配信

コフレで外出が難しくなっても、ちょびほり運動ができてしまうかも。
ヨガで身体を柔軟にしましょう。

スマホやパソコンがあれば自宅でもレッスンが受けられます。

家での運動習慣づくりで役割分担の大切さや仲間におおげなせかけし、実際にご一緒にやります。

日 時	3月3日（水曜日）から 午前10：00～午前11：00	公民館高齢者講座 からだいきいき ～ヨガ入門
講 師	悠 帆（ゆうほ） ヨガの先生 (公民館ボランティア活動員)	
内 容		 自宅でヨガ Zoomで配信します。
期 間・定 員	80名	

参加資格： 30歳以上、パソコン、スマホでZoomの通信が可能な方で希望者です。

受 取： パソコンおよびスマホの通信環境が整っていますので、予めご準備ください。

要 料： 2月28日（水）午前9時前迄に連絡先はメールで申し込みください

※メールはタイトルに「 Zoom でヨガ講座」と記入して空メールをお送りください。

お問い合わせ・申し込み： 公民館活動課 電話 042-552-0864

メール yodaihall@netcom

印刷部 98年3月23日

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表			
事業項目	基本目標（１） 市民の暮らしに寄り添いながら市民のつながりの中に学びを生み出す		
	事業の概要		
1【施策】 市民の暮らしに寄り添った学びの循環づくり	経費	【謝礼】 364,000 円 【委託料】 300,000 円	
【課題】 ○ 柔軟な発想で、小中学校でのSDGsの取組みも絡めた連携。 ○ 市民の悩みを学びから解決できるケースを、学びの循環の成果として情報発信できないか。 ○ 講座をきっかけに暮らしや趣味が広がる工夫をする。	延べ 参加 人数	10 事業：228 人 2 委託事業：310 人	
事業の成果			
・コロナ禍で生活様式が急激に変遷し、市民が集い学びあうことにリスクが生じる現在、公民館ではオンライン講座と対面講座を併用させた講座を充実させることで「新しい公民館」としての学びを提供する事ができた。 ・「第 33 回公民館まつり W i t h コロナオンラインで出会い、ふれあい、学び合い」、「誰でも気ままにオンライン！『ZOOM 会議』に初挑戦」、「ひの市民大学：大学連携コース」、「オランダから生中継！アートセラピー講座」、「コロナ禍で癒す命の慈しみ」、「英語を使えるにはどうしたら？」等の事業でこの「新しい公民館」の手法を試み、今までは市内・近隣市のみだった参加者が、オンライン講座を導入したことで他県からの参加も報告された。このことにより今後、市民に学びによる広範囲のつながりを提供することができる可能性が見えてきた。 ・コロナ禍に於いて、外出制限が長引く現在、野外活動への市民ニーズが高まっている。その中で浅川を守る活動を行う「多摩川漁業協同組合」を講師に迎えた「ひの市民大学：日野で漁師『浅川で副業！？アユ釣りを学ぶ』」は市内の社会的資源を新たな学びのツールにすることができた。			
公民館運営審議会の意見			
・コロナ禍において生活様式が変化した現在、自宅で学習を楽しめるような企画が望まれている。「ZOOM 会議に初挑戦」は、公民館利用者からの相談を受け公民館事業に展開でき、学びのよる地域課題の解決につながった好例である。これからはオンライン講座と対面型講座について、それぞれの良い点などを取り入れ、参加者層の違い等を考慮し、新たに来館者を広げたり既存の来館者に学びを届けたりする方策につなげてほしい。			
事業の課題と改善策			
・「コロナ禍で癒す命の慈しみ」は、病院主催事業ではあるが、公民館がライブビューイング運営を協力し「学びの保障」を実現できた。また、「ひの市民：大学連携コース」では、明星大学・実践女子大学のご尽力により市民がオンラインで受講できる環境ができた。今後も Z O O M等の市民に有益な情報を提供していきながら、デジタル格差の状況にある人でもきちんと学ぶことができるような学びの条件整備・環境のサポートを他機関とも連携していきながら継続していく必要がある。			

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表			
事業項目	基本目標（１） 市民の暮らしに寄り添いながら市民のつながりの中に学びを生み出す		
	事業の概要		
2【施策】 「学び、学びあい」による生きがいづくり		経費	【謝礼】432,500 円 【委託料】2,303,360 円
【課題】 ○ サークル同士が交流するきっかけ創りを。 ○ どうしたらサークル化となるのか分析すること。 ○ 身近な市民講師を見つける努力をすること。		延べ 参加 人数	17 事業：503 人 2 委託事業：852 人
事業の成果			
・「シニアのための陶芸体験講座」、「サウルハープと弾き語りクリスマスコンサート」、「チェアエクササイズ講座」、「今一度、ごみの処理について考えてみよう」等の多くが高齢者事業である。会場となった高幡台分室は市内でも高齢化率が最も高い地域であるため、「高齢者事業市民企画会議」を毎月実施し、市民ニーズを捉えてもらっている。市民同士がゆるやかに対話する中から企画が浮かび、具体化していく。ゴミの出し方が企画につながった事業もあり、市民の力を活用した企画運営は、高幡台分室を充実に導く大きな成果となっている。 ・「はじめてのスマホ（アンドロイド・ 아이폰編）」は、コロナ禍であり、デジタル化が急速に進む現在、高齢者のデジタル格差解消のための事業であり、今最も市民ニーズの高い事業の一つである。 ・映画会は、市民企画委員の意見を踏まえて、上映作品が決定される。今年度は、コロナ禍で都立図書館からの映画フィルムの借用が困難であったため、DVD 作品を中心に開催した。定員を制限せざるを得なかったが、いずれも盛況であった。			
公民館運営審議会の意見			
・17 事業はやや多く精選も検討されたいが、多くの事業を展開している点は評価する。 ・高齢者事業としての「スマホ基礎講座」が市民ニーズに込えている。また「スマホマイスター養成講座」は、学びたい人同士をつなげていく、また学びづらい人がつながっていくことで市民同士が支え合い、学びあう仕掛けとして優れている。市民が学び、講師となっていくことで地域課題を解決する可能性がある。今後、公民館の Wi-Fi 環境等の整備との相乗効果も期待できる。 ・公民館備品を修繕する講座によってサークル同士のつながるキッカケづくりを行う発想が良い。アートセラピーや、手作り絵本などの学ぶことによって人生が豊かになる講座が集中していることも評価できる。全体として、コロナ禍でサークルの発足等が難しい中で、仲間づくりの土壌を作ることができた。			
事業の課題と改善策			
・公民館に Wi-Fi 環境等が整備され、事業に於いて活用されている事は、近隣他市の公民館と比較しても非常にスピーディーであり大きな成果であると言える。今後もオンライン形式・対面形式をハイブリッドさせ、今までで学ぶ機会に恵まれなかった市民にも目を向け、新たな学びの環境を広げていくことを期待している。 ・公民館職員は、市民一人ひとりの課題解決に向きあい、寄り添うことが必要である。その際、公民館職員が地域のコーディネーターとして、どのように講座等に参加した市民をつなげサークル化させる手法について、公民館の先輩利用者から助言や協力を得るなどの工夫をしながら明確化・明文化することを課題として取組んでほしい。また、公民館を貸し部屋のみで利用する市民にも公民館事業に関心を持ってもらい、その学習の成果を講師として地域に還元できるような工夫も併せて行ってほしい。			

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表			
事業項目	基本目標（２） 「学び」に集う人たちを地域や社会につなぐ		
	事業の概要		
1【施策】 地域をステージに自ら考え、ともに行動する学びを実現する	経費	【謝礼】222,000 円	
【課題】 ○ 学校への出張講座を検討していく。 ○ 市内の市民講師等のキャリアを活かす場を模索していく。 ○ 公民館の多くの課題（未利用等）の現状把握に努め可視化していく。	延べ 参加 人数	15 事業：606 人 ※内 2 事業が中止	
事業の成果			
・アウトリーチ事業は、8 中学校区に対して企画立案されたが、コロナ禍のため、8 事業中 2 事業が中止となった。しかし、市内の様々な特技等を持つマイスターを探したり、地域の様々な資源の活用や協力を得ることが出来た。この事業は、コロナ対策を施した会場設営を行い、オンライン配信も併用するなど、挑戦的且つ積極的な運営がなされた。参加人数を制限しても、安全安心に実施できた事は、市民の学びの保障を行う取り組みであると言える。			
公民館運営審議会の意見			
・アウトリーチ事業には、学校への出張講座や、魅力ある市民講師を見出し活躍してもらう場づくりと、市民の学習意欲がマッチした事業が並んでいるので継続を望む。第 2 次計画のアンケート調査では、若い世代に公民館の存在が知られていない現状が浮かび上がったが、この事業で可能な限り地域の現状を把握し、「学びのタネをまいた」状況を可視化して把握していった方が良い。また、当該施策は、体験型講座が多く、コロナ対策が大変だったと思うが、感染対策やクラスター対策を徹底しながら学びの機会を創出できたことは評価したい。コロナ禍で健康について大きな懸念が叫ばれる中、健康講座なども多く取り上げ、市民の実際生活に寄り添う姿勢が伺えた。			
事業の課題と改善策			
・アウトリーチは当初より定着しており、公民館事業として軌道に乗っている。今後の長期的な事業目標として、市内地区センターの活用や、学校への出張を行い地域と学校との交流を活性化させてほしい。			

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表			
事業項目	基本目標（２） 「学び」に集う人たちを地域や社会につなぐ		
	事業の概要		
２【施策】 地域や社会的資源を生かし、学びを通して暮らしの課題解決の支援をする		経費	【謝礼】 84,000 円 【委託料】 400,000 円
【課題】 ○ 地域に根差した公民館運営を図る上で、地域団体との調整を密にする。 ○ 公民館を介して、地域住民の新たなつながりや学びを支援していく。		延べ 参加 人数	2 事業：89 人 1 委託事業 1,463 人
事業の成果			
・高幡台団地自治会、高齢福祉課、日野市ボランティアセンター、地域包括支援センター、UR の協働で地域住民が希望する野外映画会「ほしぞら映画会」を実施した。当該自治会はかつて大規模な盆踊りなど活発に活動していたが、近年は高齢化が進み、またコロナ禍によりイベントが実施できないことが地域課題を抱えていた。映画上映会は、ノウハウを持つ公民館が参加することで実現し、地域課題解決の一助を担うことができた。人が集うことによって得られる心の満足感は、地域にとって不可欠なものであり、公民館の存在意義を示すことができた事業であった。			
公民館運営審議会の意見			
「ほしぞら映画会」は、企画、運営の段階から、多くの団体や関係機関との調整などを行っていったので、コロナ禍における開催には、大きな尽力エネルギーを必要とする事業であったと想像できる。しかし、それだけの苦労の甲斐、価値のある実践だと思う。学びモデル事業として、自治会や関係団体との連携に基づく公民館事業が展開された点は評価される。コロナ禍においても地域に根差した公民館運営を進めるために、地域の関係団体との連携を密にすることが求められる。			
事業の課題と改善策			
・他機関との連携で実現した高幡台団地地域の事業は、高齢化が著しく進行している地域にとって良い企画なので、継続して行ってほしい。 ・「これからの生き方について著者と語ろう」は良い企画なのに、仲間づくり・サークル化をコロナ禍で実現できなかったのは残念である。アフターコロナの仲間づくりをどのように行うかを考えていかないと、公民館はただのイベント屋になってしまう。講座等の企画の中で、つながりができる仕組みなどを真剣に検討し、実現していくことを期待したい。			

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表			
事業項目	基本目標（２） 「学び」に集う人たちを地域や社会につなぐ		
	事業の概要		
3【施策】 暮らしと地域に結びついた安全安心な社会をつくる		経費	【謝礼】10,000 円
【課題】 ○ コロナ禍で災害時の対策は重要課題であることを認 する。 ○ 専門機関等と連携し、安心・安全を多角的に捉えた学 びを保障する。 ○ 防災、防犯学習と地域住民の結束が重要と考え、積極 的に推進する。		延べ 参加 人数	1 事業：48 人
事業の成果			
七生中アウトリーチ事業「震災を忘れるな その時人文と家族を守るため」は、東日本大震災から 10 年経過し、人々から震災の記憶が遠ざかっている現在、地域の声により、オンラインと対面形式（3 会場）の併用方式で実施したが、コロナ対策や、オンライン運営等で多くの職員の力が必要となったが、日野消防署、市防災安全課、みなみだいら児童館、地域の防災リーダーの協力で開催する事ができた。 当該地域は特に、浅川と丘陵地に挟まれており、水害や土砂災害が危惧されており、コロナ禍に於ける避難所運営も対応が厳しいと予想される。そのため、災害時の「自助・共助」は地域住民自身の問題であることを常に呼び起こす必要がある。			
公民館運営審議会の意見			
オンライン、対面形式のハイブリッド開催で参加者の増大を図ったことは評価できる。安心・安全の啓蒙は市民の実際生活に最も重要な事業である。報道などで言われている災害対策はともすると他人事のように聞き流してしまうが、小さなコミュニティ単位で防災講座を実施することで、地域住民は自分の居住地の問題点などを考え、「我が事」として取り組むことができると思われる。さらに、コロナ対策などの感染症に対する科学的知識の獲得や、差別・偏見のない社会づくりこそがこの施策の重要な課題である。専門機関等との連携により、多角的な学びを保障できると良い。			
事業の課題と改善策			
・自然災害への危惧は高まっている。ハザードマップの災害が予想される地域で同じような不安を抱えている住民は多い。日野市に救急車は 3 台しかないことや、救命措置など知っておかなければならない知識も沢山あるので、防災講座は住民が我が事と捉えられるように、意識的・積極的に事業に厚みを加えていってほしい。			

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表		
事業項目	基本目標（３） 世代をこえて新たにつながる「学び」を創り出す	
	事業の概要	
1【施策】 子どもから大人まで切れ目のない学びを創造する	経費	【謝礼】 446,000 円 【委託料】 127,000 円
【課題】 ○ 各世代向け事業に於いて、ジャンルをもっと広げる工夫をする。 ○ 世代を超えてプレイできるポピュラーなゲーム等の企画を立案する。 ○ 地域の資源・資質を有効活用する最適な施策の継続していく。 ○ 企画に於いて、目的・対象を明確にすること。	延べ参加人数	18 事業：937 人 ※内 1 事業が中止 1 委託事業：48 人
事業の成果		
・ひの市民大学は、市民企画委員が企画運営する事業であり、対面形式を6事業実施した。しかしコロナ禍で定員制限を行った結果、参加者数はいずれの事業も減少した。しかしながら、内容的には美術系、文化系、理科系など多岐に渡るバラエティ豊かな展開となった。 ・「子ども将棋指導対局」は、公民館サークルに子どもを指導してもらい、多世代交流が実現している。そのサークルからの提案で、女流棋士を招くイベントを実施して、市民交流を深め、将棋人口拡大の一助にもなった。 ・「ご近所シネマ～夏休み編～」は、公民館と近隣施設の情報交換会「ご近所会議」で、コロナ禍の夏休み期間中に子どもたちに何かしてあげたいとの思いから実現した。施設ごとに役割を決め、コロナ対策を施したうえで、夜の映画上映会・模擬店等を実施して、家族旅行等の自粛を余儀なくされている子どもやご家族に、楽しい夕涼みの一時を提供できた。全体的に、子ども体験型事業や、大人の生涯学習系事業の開催が目立った。		
公民館運営審議会の意見		
「ご近所シネマ～夏休み編～」に代表される多世代交流イベントが素晴らしい。特に「将棋対局」は将来日野の子どもが全員指せるようになるまで継続してほしい。地域社会・学校・家庭が従来の枠をこえて、積極的に、時に冒険的に事業を進めている。密を避けるため事業縮小等が求められる中で、どのような人に向けて学ぶ機会を創出する事業であるのか、事業の目標を再考し、次のステップへの戦略・事業デザインをしっかりと検討して、実施してことが大切である。		
事業の課題と改善策		
・目標にある「世代をこえ」ることは実際に行うと難しい。年長世代が下に教えるだけでなく、若い世代が高齢者に教える双方向性の関係が必要である。そのコーディネート、ファシリテートも公民館の役割である。双方向性のある世代を超えた「学び」の在り方を探ることを課題にしてほしい。		

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表			
事業項目	基本目標（３） 世代をこえて新たにつながる「学び」を創り出す		
	事業の概要		
2【施策】 平和な暮らしを支える意識を育み、未来につなぐ		経費	【謝礼】135,000 円 【委託料】160,000 円
【課題】 ○ 市内中学校や高校、大学との連携・接続も視野に企画を進める。 ○ この種の講座はより平易に、より身近に、受講しやすい工夫をする。		延べ参加人数	2 事業：62 人 1 委託事業：287 人
事業の成果			
・憲法、人権、平和などは公民館の存在意義としての根幹である。普段、私たちは憲法や人権、平和に守られていることを意識せずに生活しているが、いずれも絶対に欠く事のできない権利である。今年度、事業数は少ないものの開催方法を検討しながら、参加者が興味を抱き、自分たちの問題と捉えて貰えるような取り組みを行った。 ・ハンセン病隔離政策により長期間不条理な苦しみを背負わされてる人々に焦点を当て、感染症による不当な差別の横行の事例を紹介した。コロナウイルスの感染が終息しない中で、感染した方が風評被害などを受けている現在、差別のない社会を創ることを見つめ直す事業となった。 ・「私たちの暮らしと憲法」では、オンライン併用で開催した。また、オンライン参加者には、講座の事前に使用方法をレクチャーするなど、当日の混乱を回避し安心して参加できるよう取り組んだ。			
公民館運営審議会の意見			
・憲法をテーマとした事業や、差別の問題を学ぶ事業などは、市内の中学・高校・大学と連携し、より平易に、より深く、より身近なものとして理解してもらえる事業になることを望む。各講座を対面形式・オンライン形式の併用開催ができたことは評価する。オンラインの使い方を事前にレクチャーした点も、社会教育機関の根本かつ大切な姿勢である。 ・「アンガーマネジメント」は子育て中の誰もが通る「カオス」の時期に求められる考え方である。そんな保護者たちの味方になる講座がこれからも実施されると良い。			
事業の課題と改善策			
・憲法学習等は戦後の象徴であり、公民館の根本なので、民主主義を学ぶ場として今後も継続していくべきである。また一步一步、確実にやっていくために、人権・平和のテーマについて職員の勉強会・チーム編成も必要である。憲法、平和、人権等の講座はその内容を工夫をして、誰もが等しく参加できる機会を創出してほしい。公民館平和事業に中学生が出演したことにより、多世代の市民が参加することができた事例もあるので工夫して行ってほしい。			

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表			
事業項目	基本目標（３）		
	世代をこえて新たにつながる「学び」を創り出す		
事業の概要			
3【施策】 さまざまな地域資源や学習の機会・場の情報共有を充実させる		経費	【謝礼】80,000 円
【課題】 ○ 他機関と協働し同テーマ・シリーズ化した講座の協働企画を行うこと。 ○ 日野の魅力を様々な分野・側面から発信すること。 ○ アウトリーチ先の自治会などとの連携を図ること。		延べ 参加 人数	3 事業：90 人
事業の成果			
・郷土資料館とのコラボレーションにより、地域の歴史や過去における災害史を学ぶ事業を開催することができた。 ・「津軽三味線にチャレンジ」は「ひの社会教育センター」との連携事業である。異なる特性を持った業種同士が協働し、互いに補完し合いながら、市民に学びの機会を提供するための初めの一步となった。			
公民館運営審議会の意見			
・市民が地域資源を学ぶことは、日々の生活を捉えなおす良い機会になる。また、他の社会教育機関との協働は、公民館未利用者への周知を期待できる。今後、さらに他の機関同士の情報を共有し合い、互いに刺激し合いながらそれぞれの事業を紡ぎ合わせる展開を期待する。			
事業の課題と改善策			
・現代は、物事の変化スピードが激しくなっており、先の見通せない不確定・不安な時代である。社会教育機関にはそれぞれの役割や特色があるが、それらの機関に公民館が関わり持つことによって、新たなつながりや発見が見出される可能性がある。この不透明な時代を生きる市民に寄り添い支援していくために、他の機関とつながり、互いのポテンシャルを最大限に引き出し、有効活用できるための公民館になることが急務である。			

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表			
事業項目	基本目標（３） 世代をこえて新たにつながる「学び」を創り出す		
	事業の概要		
4【施策】 まちの自然・歴史・文化に親しみ、多世代間で知恵を交流する		経費	【謝礼】266,000 円 【委託料】244,000 円
【課題】 ○ サークルと協力しての講座開催を企画すること。 ○ サークル共催企画など職員のコーディネート能力の更なる向上を図る。 ○ 地域に繰り出していく屋外型事業を一層充実させていくこと。		延べ 参加 人数	13 事業：332 人 1 委託事業：498 人
事業の成果			
・今では少なくなった人材や産物、昔の暮らし等に焦点を当て、日野の文化を継承していくことが出来た。 ・季節ごとの和の行事を学ぶ講座では、その意味や習わしを教わった。また「ひの市民大学『日本の四季と月暦』」では、暦と行事の繋がりについて、現代では行事のみが残り、忘れ去られた「暦」に触れ、本来の行事の意味などを知る機会となった。 ・「東光寺大根」は、市内で3軒のみが栽培している作物であり、江戸東京野菜に登録され、昨年度は大嘗祭にも献上された市の特産品である。市民にもあまり知られていない特産品を周知する目的で実施した。 ・全国で3人しかいない銭湯絵師のうち1人が日野市在住であったため講師依頼を行った。事業開催直前にはNHKにも出演されたため、多くの反響があり、当日は見学者で公民館は大賑わいだった。			
公民館運営審議会の意見			
・学び合いによるつながりづくりが公民館の使命である。この施策では、市内の自然や文化等の地域の魅力を活かした仲間づくりの講座がバラエティ豊かに開催され、各事業内容や実施方法に合わせた感染症対策もしっかりと行われている。熱中症対策を施し、地域に繰り出していく屋外型事業を一層充実させることも、アフターコロナの公民館の新しい形になるかもしれない。 ・公民館サークルなどを巻き込んだ企画をコーディネートできる職員の能力が、更に高まることを期待する。			
事業の課題と改善策			
・公園等で本を読むことができる空間づくりを行う「パークライブラリー」のような手法を取り入れることを検討してはどうか。公民館も定期的に外へ出て行く事で公民館活動に触れる機会の創出を図ってほしい。全国的な動きとして、公民館が直接地域に出向き、様々な情報を届ける事例は多いので検討してほしい。 ・身近なところにも興味深い歴史があり調べれば面白い。市内にもトヨダビール・用水の水車等を研究している市民がいる。新選組以外の、自分のまちと今の生活を結びつける歴史を知る講座等を数多く開催することを望む。 ・地域を知るプロセスはおのずとアクティブラーニングとなり、よく頭に入る。日野の子どもたち・若い世代が知ることができるように社会資源をもっと発掘し紹介していくことを課題としてほしい。			

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表	
事業項目	重点事業（１） 地域の特性を生かした学びの場の充実（学びの種をまく）
事業の概要	
「地域に学びの種をまく」をコンセプトに、学びのアウトリーチ事業を実施した。公民館から地域へ「学びモデル」事業を展開することで、地域に根付く学習の場を充実させる。	
事業の成果	
地域で活躍している人、そこに暮らす人たち、地域資源などを有効的に活用し、地域や人でつながる事業を展開した。企画内容などを地域の人たちと一緒に立案していく中で、徐々に地域に溶け込み始めており、学びや交流の種となるきっかけや出会いなど、未来につながる事業となった。 実施地区（中学校区域） 一中地区 蚕でつなぐプロジェクト～一緒に蚕のこと学びませんか～、Ver. 2、糸取り編、Ver. 3 二中地区 御料林からみんなの森へ【新型コロナウイルス感染症対策により中止】 三中地区 ほしぞら映画会 四中地区 マリンバと世界の珍しい民族楽器 三沢中地区 日野市中央公民館×日野市立日野第八小学校「星空ツアーに出かけよう！」 七生中地区 オンライン併設 「震災を忘れるな～その時自分と家族を守るために」 大坂上中地区 子どものための居場所マップ【新型コロナウイルス感染症対策により中止】 平山中地区 平山地域の歴史を知ろう！	
公民館運営審議会の意見	
学びの種をまく、その蒔き方の創意工夫、種の吟味が大切であると思われる中で、公民館職員の積極性を高く評価する。また、ここ数年で公民館の認知度も急上昇したと思われる。公民館サークル、地域資源の活用など地域に根ざした学びの種を蒔くことができたのではないかな。この間、ポストコロナを見据えて学びの種をどれだけ広くまけたかが後に問われてくると考えられる。まいた種を継続して育てていくことを期待する。	
事業の課題と改善策	
・コロナウイルス感染が拡大している最中、地域の特性を生かし「学びの種をまいていく」事は困難な事と思われる。そのような状況下で創意工夫し、「学びの種」を吟味しながらの令和2年度事業の取組みは非常に積極的であったと高く評価できる。ただし、アウトリーチ事業の定着・拡大は必須であり、公民館が学校教育や生涯学習、社会教育との橋渡し役を担い、市民と継続的に関わり合うことで、つながりの中に学びを生み出すニューステージを構築していくことを望む。 ・単発事業で終わることなく、子供にとって公民館を知って何が良かったかを振り返り、工夫を続けて、令和3年度に何をしていくかが重要である。子供は魅力がないと近づいていかない。子供がよく見るYoutubeなどで情報発信をするなどの工夫が望まれる。公民館公式キャラクターの公募や、公民館Tシャツをつくるなどの子どもにとって視覚的にのわかりやすく、伝わりやすいところから入っていったらどうか。 ・30代～50代の働き盛り世代を取り込む努力をしていくべきである。今までの連携したことのない部門と協働することで、今まで公民館事業に参加したことのない市民の層を取り込んでみてはどうか。	

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表	
事業項目	重点事業（２） 開かれた学びの提供、緩やかなつながりの創出（交流の種をまく）
事業の概要	
第２次基本構想、基本計画や、平成３０年度公民館運営審議会答申を受けて、ゆるやかにつながる機会と場の拡充や、つながることで学びが深まる仕組みの整備などの具現化にむけて、サークル支援、中央公民館談話室活用、中庭の活用、高幡台分室の学習環境づくり等の充実を図る。	
事業の成果	
・コロナ感染拡大防止のために市のイベントもほぼ中止となる中で公民館まつりは中止にせず、オンラインイベントとして実施し、長期間の展示や、サークル紹介動画の制作を行い、今までとは違ったカタチで開催し、新たなつながりができた。また、高幡台分室まつりは中止となったが、公民館まつりへの参加を促し、分室サークルの多くが参加した。 ・大学連携事業では、コロナ禍においてできることを帝京大学や実践女子大学の学生らと模索しながら取り組み、学生と利用者、公民館とのつながりをより深める成果を得ることができた。 ○「オンライン公民館まつり with コロナ」への参加（帝京大学・実践女子大学） ○コロナ禍における公民館サークルの活動についてアンケート調査及びインタビュー冊子の作成（帝京大学） ○学生制作の多世代交流カルタを活用した居場所（実践女子大学） ○カルタ制作のための学生と利用者のワークショップ（実践女子大学）	
公民館運営審議会の意見	
従来の対面形式に加えオンライン形式での事業の開催も増えてきた。公民館に Wi-Fi 環境を整備、活用することで、未利用者や多世代間同士の新たなつながりを育む良い機会が到来したとを感じる。また、臨時休館中に帝京大学の丹間ゼミ生から公民館利用者に宛てた手紙が印象的で、古くからの交流の在り方の良さも見直すことが出来た。今後も新旧様々なつながりの形を維持して欲しい。 対面での交流が難しい中、「オンライン公民館まつり」が実現した事は、日野市の公民館の歴史に残る大きな出来事であり、職員のオンラインスキルも向上し、アフターコロナに向けて「新しい公民館」を構築していくことにも期待したい。	
事業の課題と改善策	
コロナ禍に於いて「学び合い」、「つながる学び」が新しい様式へと変革し始めている。人とふれあうことでつながる今までの在り方を大切にする一方、オンライン形式の学びを創造することで、「温故知新」、「不易と流行」をしっかりと踏まえた「新しい公民館」のつながりを模索して欲しい。	

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表	
事業項目	重点事業（３） 第２次公民館基本構想・基本計画の推進
事業の概要	
令和２年度（計画初年度）から５年間の基本構想・基本計画に基づき、年度ごとのロードマップに沿った事業組み立てにより事業を推進する。	
事業の成果	
職員が第２次計画の目標・施策を地域へ出向いて行うことで、さらに学びによる豊かな暮らしを実現させる予定であったが、コロナ禍のため計画通りの実行は叶わなかった。しかし、オンライン配信を活用し、今までの事業形式と併用する等の工夫を凝らした。職員が新たにオンライン活用の技術を獲得したのは新たな成果である。	
公民館運営審議会の意見	
コロナ禍で外出がままならなくなり、身近な生活の楽しさ・豊かさが見直されている。「市民の暮らしに寄り添う」「世代を超えてつながる」ことを掲げる第２次公民館基本構想が今こそ重要となってきた。計画の周知のみに注力するのではなく、計画を実行するプロセスの中で、より多くの市民が出会い、学び、笑顔が増える日野市となるように第２次計画を推進して欲しい。	
事業の課題と改善策	
・コロナ禍により、公民館活動大きな支障をきたしたが、この状況をプラスに捉え、新たな発展に結びつける工夫を実施して欲しい。 ・自治会の機能が薄れ、地域コミュニティが衰えつつある中、公民館が地域の自助・共助・互助などを学ぶ機会を提供する必要がある。災害に見舞われた時に人々は共助や互助の必要性を痛感する。平常時から地域に顔の見える関係性を創り出すために、例えば各地区センターに「ミニ公民館」を開設し、お茶を飲めるような「縁側」を届けるような企画はできないか。最初は公民館が行い、徐々に自治会に渡して、自治会を育てていくようにしていけば、自治会の活動も面白くなり、その活性化にもつながっていく。自治会や地域の関係機関とも連携して「地域の縁側」を創り出す事業を推進して欲しい。	

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表	
事業項目	重点事業（４） 公民館未利用者へのアプローチを図る
事業の概要	
公民館の持続的な運営に欠かせぬ人と人とのつながりを大切に、サークル相互の情報共有や新メンバーを迎え入れる体制づくりを行うとともに、自治会など地縁団体に対して積極的に情報提供を行う。さらに、市内各施設での事業実施を拡充し、市内全域に公民館の学びを届ける。	
事業の成果	
第２次基本構想・基本計画の初年度として、未利用者へアプローチを仕掛ける予定であったが、コロナ禍により頓挫してしまった。密になることを阻まれ、従来の学びの様式が提供できなくなったが、オンライン形式・対面形式の併用講座を促進し、地域市民と協働しながら、成功か失敗かに捕らわれず、果敢にチャレンジして、この難局を乗り越えることができた。	
公民館運営審議会の意見	
公民館未利用者にその存在を知ってもらうための事業を展開する必要がある。公民館の立地を考えると市内各地域の公共施設や、地域の施設と連携した事業の在り方が有効だと思われるので検討して欲しい。従来の周知活動の他に積極的にオンライン配信を新しい事業ツールにして若い世代にアプローチして欲しい。また、外国人とも積極的な交流の機会を設け、互いに理解し合う事業も進めていく必要があるのではないか。	
事業の課題と改善策	
・誰に、どうやってアプローチしていくかが重要であるので、以下の様なつながるための施策を推進して欲しい。例えばYoutubeの活用などの未利用者が参加してみたくなる施策について、利用者の輪も活用すること検討しながら、考えて行ってほしい。 ▶多世代交流の推進 ▶障害者事業については「少年・青年成人学級」事業の積極的な紹介 ▶外国人に対しては「外国人のための日本語教室」事業では、直接活動の場に赴き、声掛けを行う。 また、社会で孤立になりがちな人たちを包容していくことを意識した施策を実施して欲しい。 ・大学のゼミ生などを対象に周知することも効果的と思われるので、積極的な大学連携を推進して欲しい。	

日野市中央公民館の運営状況に関する評価表	
事業項目	重点事業（５） 市民のつながりの中に、対話的、自律的、体験的な学びの循環を創り出す
事業の概要	
ひとりひとりが、自分の地域や社会のことに思いが向き、何か新しく行動をしてみようと思うキッカケづくりを行う。また、市民の主体的な学びを応援し、学んだことを誰かに伝えるという学びの循環を創出する。	
事業の成果	
コロナウイルス感染の終息が見込めない状況下で、公民館利用者が主体となり談話室を活用した新たな学びの場や居場所づくりを実施した事業や、市民・公民館サークルが企画提案をして、新たな事業に挑戦する取組みなどの成果が生まれた。	
主な事業 ・ママのための自分時間～子育てからちょっと離れて、ゆっくり・じっくり自分を見つめてみませんか～ ・居場所こむこむ（子ども居場所づくり） ・今一度、ごみの処理について考えてみよう ・そば、うどん用のし板修繕 ・シニアの人のための陶芸体験講座	
公民館運営審議会の意見	
学びの循環を形成することが、公民館の使命である。コロナ禍とデジタル社会への急速な移行の中で、地域のつながりの希薄化が進んでいるが、他者とのつながりの大切さを再認識されることになった。コロナ禍により、社会教育機関として果たすべき役割に大きな制約が生じたが、それらの障壁を乗り越えて、対面形式とオンライン形式を併用する新しい学びによるつながりを公民館が支えていってほしい。市民の暮らしから「学びの循環」を絶やさない展開を期待する。	
事業の課題と改善策	
・「居場所こむこむ」は公民館利用者からの提案で実現した「子ども居場所づくり」である。市民が自発的に学び、その成果を地域に還元する「学びの循環」が具現化した事例である。また、「シニアの人のための陶芸体験講座」は、公民館利用者が講師となり、市民の学びが実現した。今後も市民の創意工夫を大切にしながら市民の学びの中につなげる機会を作り、市民相互のつながりの中に、対話的、自律的、体験的な「学びの循環」を創出する事業を展開していってほしい。 ・今後も、地域社会に積極的に関わることで市民の声を聴き、公民館が生活・地域課題の相談窓口として機能することを期待する。	

公民館事業のあらまし

(「令和2年度社会教育のあらまし」からの抜粋)

1 公民館主催事業

公民館主催事業（講座・教室など）を事業分類ごとに紹介。

① 成人事業

ア. バラエティサロン

地域の中で気軽に“質の高い文化”に親しめる場として位置付け、音楽の演奏会等を開催する。

開催日	内 容	出 演	会 場	参加人数
1月16日	新春初笑い寄席	立川 がじら	中央公民館	19

イ. 映画会

名画と呼ばれる作品を取り上げて上映し、その時代背景、製作過程、監督、俳優などについて考察する。

上映会場は中央公民館で2回、福祉支援センター（高幡）1回。

開催日	作 品	監 督	出 演	参加人数
8月22日 (中央公民館)	青い山脈	西河 克己	吉永小百合ほか	15
2月27日 (福祉支援センター)	ビルマの豎琴	市川 崑	三國連太郎ほか	18
3月18日 (中央公民館)	人生とんぼ返り	マキノ 雅弘	森繁久彌ほか	18

ウ. ばそこんくらぶIN高幡台分室

開催日	6月5日～12月4日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全13回
内容他	参加者が自前のパソコンを持参し、参加者同士がパソコンの使い方を教え合う事でゆるやかにつながる交流の場として開催。
講 師	松村 良
参加 延べ人数	80人

エ. 誰でも気ままにオンライン!「ZOOM 会議」に初挑戦!

開催日	7月22日
会 場	中央福祉センター
開催回数	全1回
内容他	「Withコロナ」時代に対応する「学び」を情報発信ができる環境を作るため講座を開催。
講 師	宮崎 雅也
参加 延べ人数	7人

オ. オリジナルエコバッグづくり

開催日	8月4日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	令和2年7月1日レジ袋の有料化に伴い、自分だけのオリジナルマイバッグを制作し、普段からマイバッグを使用し環境への負荷に役立てる。
講 師	中村 由紀子
参加 延べ人数	11人

カ. これからの生き方について著者と語ろう

開催日	9月12日・9月19日・9月26日
会 場	中央公民館
開催回数	全3回
内容他	これからの社会における働き方や暮らし方をテーマに、今それぞれが抱える課題を共有するとともに意見交流し、一人ひとりがより豊かに生きるために必要なことは何かを、自由に考えあう機会とする。
講 師	荒川 和久、小川 たまか、萩原 修
参加 延べ人数	43人

キ. 陶芸講座 はじめてのやきものづくり

開催日	6月30日～9月27日
会 場	中央公民館
開催回数	全4回
内容他	令和元年度、新型コロナウイルス感染症対策により中止した分を開催。素焼き、釉薬掛け、本焼き、窯出しなどの工程。
講 師	岩澤 ゆり子、島崎 守子、高橋 佐喜子、増子 陽子

参加 延べ人数	23人
------------	-----

ク.「そば・うどん用のし板」修繕

開催日	10月6日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全1回
内容他	公民館利用サークルからの要望を受け、うどん・そば打ちサークルに事務局から発信して実現した事業。
参加団体	公民館登録料理サークル
参加 延べ人数	6人

ケ. 季節を楽しむ和の行事 お月見編 ～十三夜へのいざない～

開催日	10月22日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	日本には、お正月、お雛様、七夕、お月見など四季折々の行事があり、これらの行事の意味や由来について学ぶ。 10月29日がお月見（十三夜）なのでお月見の室礼を実演し、公民館登録の朗読サークル「にじの会」による樋口一葉の『十三夜』を朗読し、文学の中の日本の行事に触れる事ができた。
講 師	枝川 寿子、長谷川 葉子
参加 延べ人数	30人

コ. オランダから生中継！ アートセラピー講座

開催日	10月24日
会 場	中央福祉センター オンライン
開催回数	全1回
内容他	新型コロナウイルス感染拡大に伴う様々な不安や外出自粛のストレスにより、心と体のバランスが崩れがちな今、市民の心のケアが大きな課題となっている。アートセラピー（芸術療法）を通して、参加者が自身の心を見つめ癒すことを目的に、オランダ在住の講師と連携し、オンライン（Zoom）で講座を実施した。
講 師	アフケ・ロッケフェーン、ケン・タナカ、竹内 真弓
参加 延べ人数	オンライン45人、会場参加6人 計51人

サ. 「私たちの暮らしと憲法」

開催日	10月31日～11月28日
会 場	中央公民館・中央公民館高幡台分室
開催回数	全3回
内容他	憲法が私たちの暮らしや日常生活にどのように関わっているのかを事例を通して学んだ。本講座はZoomによるオンライン併用講座のため、Zoom参加者の中で希望者には10月31日にZoomの使い方をレクチャーした。
講 師	公民館職員、中村 安菜、中川 律
参加 延べ人数	36人

シ. 日野宿ひな巡り ～つるし雛の花と蝶～

開催日	11月5日～11月26日
会 場	中央公民館
開催回数	全4回
内容他	つるし雛のモチーフ3種、「椿」、「桜」、「蝶」の作り方を学んだ。講座修了後は日野宿界限で催される「日野宿ひな巡り」に出展し、期間中公民館に展示した。
講 師	大竹 裕子
参加 延べ人数	52人

ス. おとなの手作り絵本講座

開催日	11月20日・12月4日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	おとなを対象にした手作り絵本講座。本の構造、仕組みの説明を受け、それぞれのパーツを確認しながら絵本作りをする。
講 師	佐藤 絵奈
参加 延べ人数	18人

セ. Zoomでアンガーマネジメント ～イライラしない子育ての方法～

開催日	12月4日～12月18日
会 場	中央福祉センター オンライン開催
開催回数	全3回

内容他	アンガーマネジメントとは「怒らなければならない時には上手に怒る一方、必要のない時は怒らなくてもすむようにする」ことで、アンガーマネジメントを学んで自分の生き方、家族や子どもに対する接し方などを学んだ。
講 師	岸部 知佐子
参加 延べ人数	36人

ソ. 季節を楽しむ和の行事 お正月編 ～お正月飾りを作りましょう～

開催日	12月10日・12月24日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	初詣、門松、お飾り、お節などお正月の行事の意味や由来、室礼について学び、お正月飾り、松包みと餅花、ポチ袋を制作した。
講 師	枝川 寿子
参加 延べ人数	36人

タ. 田んぼの学校 × 中央公民館 お正月のお飾り、わら細工講座

開催日	12月12日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	田んぼの学校で収穫した稲藁を活用し、縄の編み方や門松制作にまつわる話などお正月らしい講座ができ、市民の方に地域の伝統と文化の理解を深めることができた。
講 師	尾形 重男ほか
参加 延べ人数	9人

チ. 東光寺大根でたくあん作り

開催日	12月12日・1月16日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	東光寺大根は、江戸東京野菜に登録され、大嘗祭にも献上された日野市の特産であるが今では市内で3軒の農家でしか栽培していない。地元の特産を広く知ってもらうことを目的とするとともに、昔ながらの素朴な味のたくあんの作り方を広めた。
講 師	福島 幹男

参加 延べ人数	29人
------------	-----

ツ．みんなで作る！みんなで使う！日野菜しんぶん紙エコバッグプロジェクトin公民館

開催日	1月15日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	市民サポートセンター日野とのタイアップ講座。古新聞を用いたエコバッグ作り講座を通して、SDG s についての理解と身近さを学んだ。
講 師	市民サポートセンター日野
参加人数	10人

テ．差別に反抗して～ハンセン病問題を振り返る

開催日	1月23日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	新型コロナウイルス感染症による不当な差別が人々にのしかかってくる現在、差別のない未来を創るため、改めてハンセン病問題について学んだ。
講 師	黒尾 和久、木村 真三
参加 延べ人数	26人

ト．～ふろしき王子がやってくる～ 令和スタイルの風呂敷をまなぶ

開催日	1月26日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	レジ袋の有料化に伴い風呂敷が見直されている。風呂敷は包む物の形や包む目的によって形を変えることができる便利なものである。日本人の暮らしや儀礼習慣の中で使用されてきた風呂敷を、エコ意識の面から捉えるとともに、今の時代に合った使い方を学んだ。
講 師	横山 功
参加 延べ人数	18人

ナ．中学生カメラマンから学ぶ自然 ～レンズの向こうに～

開催日	2月20日
会 場	中央公民館

開催回数	全1回
内容他	日野市在住中学生、藍沙さんに中学生写真家としての「活躍」「思い」、日野の自然など、大人に向けメッセージを話してもらい、中学生が先生、大人が生徒となり、さかさま学級の授業を開催した。
講 師	藍沙
参加 延べ人数	23人

ニ. 『日野市立病院がん患者の会「青葉の会」～コロナ禍でいや増す命の慈しみ
～オンライン中継』

開催日	2月23日
会 場	中央公民館（ライブビューイング）
開催回数	全1回
内容他	玉置妙憂先生のZoom講演を中央公民館のWi-Fi設備により受信し、プロジェクターにより上映して、オンライン操作が苦手な市民も受講できるライブビューイングを実施した。
講 師	玉置 妙憂
参加 延べ人数	23人

ヌ. 季節を楽しむ和の行事 ひな祭り編 ～ひな祭りを楽しみましょう～

開催日	3月3日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	日本の伝統文化「ひな祭り」の由来や飾りつけを学び、公民館で活動する朗読サークルの方に芥川龍之介の『雛』の朗読を演じ、文学の中の日本の行事を鑑賞した。
講 師	枝川 寿子、平野 久子
参加 延べ人数	18人

ネ. ママのための自分時間～子育てからちょっと離れて、ゆっくり・じっくり
自分を見つめてみませんか～

開催日	3月4日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回

内容他	子育て中のママがこどもと離れてホッとする時間を持つこと。 ママ同士のつながりを作ることを目的に実施。スキルアップや新しいことへの挑戦や、参加したママ達が自己理解を深めるメニューが行われた。
講師	こどもへのまなざしママ会
参加 延べ人数	11人

ノ．こんにちは！サイエンス

開催日	2月27日・3月6日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	① 「日本のケモノ、東京のケモノ」 日本および東京に生息する野生の哺乳類についての紹介、解説。 ② 「変形菌の不思議」 動物でも植物でもない不思議な生き物の変形菌（粘菌）研究の歴史やイグノーベル賞受賞などについての解説。
講 師	落合 啓二、今村 知世子
参加 延べ人数	26人

ハ．銭湯絵師 丸山清人氏による銭湯背景画のライブペインティング
～伝統文化を伝える昭和の風景～

開催日	3月14日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	国内で3人とされる現役銭湯絵師その中でも最高齢である丸山氏は、日野市在住、日野市としても貴重な人材である。昭和の庶民の生活の中にある銭湯文化について知ること、新たな学びを得る。
講 師	丸山 清人
参加 延べ人数	19人

ヒ．“スマートフォンのせんせいになりませんか！”スマホマイスター養成講座

開催日	3月28日
会 場	中央福祉センター
開催回数	全1回
内容他	デジタル社会への対応が難しい高齢者に対して、スマートフォンの基本操作を教えることができる市民講師を養成し、「学びの循環」を構築する。
講 師	(株) アミュー

参加 延べ人数	10人
------------	-----

フ. O k y u ワークショップ～コロナに負けないカラダづくり～

開催日	3月28日・3月29日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	誰でも簡単にでき身体の免疫力アップに効果がある「お灸」と身体の緊張を緩める「操体法」を学び健康増進を図る。
講 師	西畑 ありさ
参加 延べ人数	17人

② 成人委託事業

ア. 外国人のための日本語教室＜委託事業＞

地域の中で外国人が生活していくために、必要な日本語を学ぶ場として始まった事業。市内に住む外国人同士や外国人と日本人の交流を通して相互理解を深め、異文化共生を実践する場となっている。

- ア) 委託先 日野国際友好クラブ
 イ) 委託料 400,000円
 ウ) 委託期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日
 エ) クラス 日本語能力レベルが同程度の学習者ごとに編成。一人の教師が1～3人の学習者を受け持つ。

コース		水曜日(午前)	水曜日(夜間)	金曜日(夜間)
時間		午前10時～正午	午後7時～9時	午後7時～9時
会場		オンライン開催のため、なし	オンライン開催のため、なし	オンライン開催のため、なし
回数		全36回	全36回	全36回
延べ参加人数	学習者	205人	53人	582人
	ボランティア	183人	53人	387人

840人(学習者) 623人(ボランティア)

オ) 教材

「みんなの日本語 初級Ⅰ、Ⅱ」、「いっぽ にほんご さんぽ」、補助教材として絵カードや聴解CD、市販のテキスト、新聞など

イ. 田んぼの学校＜委託事業＞

農体験、その他の活動を通じて、自然に親しみ、そこで暮らす生物との繋がり、得られた大地の恵みを享受しながら、生きる・学ぶ・触れ合う・育てる力を学ぶとともに、環境

問題も含め、自然と人との共存、人と人との関わり・繋がり場としている。

- ア) 委託先 田んぼの学校運営委員会 代表 斉藤 守
 イ) 委託料 224,000円
 ウ) 委託期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日
 エ) 内容ほか

会 場	新町会場・南平会場・中央公民館
内容他	種まきから刈り取りまで、季節を通して水田にかかわり、米作りの楽しさと自然の厳しさを学んだ。 今年度は、収穫祭(餅つき等)が出来なかったので、収穫したお米(もち米)は参加者に配付した。
講 師	福島 久夫、和田 菊代、水口 均、高橋 博
参加人数	新町延べ参加人数 172人、南平延べ参加人数 326人 全23回 498人

ウ. 公民館平和事業＜委託事業＞

日野市では8月を平和月間として、事業を展開した。公民館では、「平和への祈り『一枚のはがき展』」の開催や戦争体験談、朗読「一枚のはがき」を動画撮影・配信することで平和の大切さを考える場とした。

- ア) 委託先 公民館平和事業実行委員会 代表 多胡 敬一郎
 イ) 委託料 160,000円
 ウ) 委託期間 令和2年9月17日～令和3年3月31日
 エ) 内容ほか

会 場	多摩平の森ふれあい館ほか
開催日	9月17日～3月31日
内容他	毎年8月に平和事業を開催。市民の実行委員会を主体に、様々な世代の市民が様々な表現を通じて、戦争を次の世代に語り継ぐ、平和について考える場とする。3月には4課協働による日野市平和展を開催した。
講師・出演	公民館平和事業実行委員会
来場者数	287人

③ 高齢者事業

ア. シニアの人のための陶芸体験講座

開催日	9月9日～10月18日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全8回

内容他	趣味を持ちたい。地域の人と関わりたい。と思っている方々へのキッカケづくりとして陶芸講座を行った。
講 師	公民館登録陶芸サークル 陶楽
参加 延べ人数	91人

イ. 程久保うたごえパーク

開催日	11月14日～12月26日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全4回
内容他	皆で集い楽器の伴奏に合わせて大きな声で歌うことで、家にこもりがちな方がストレス解消・リフレッシュをするとともに、仲間づくり・生きがいづくりの場を提供した。
講 師	アンサンブル「ジュビア」
参加 延べ人数	34人

ウ. ちりめんで作る和の小物～七宝まり～

開催日	11月12日～11月26日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全3回
内容他	日本の伝統的な素材を活用して、つるし飾りを作成する。参加者皆が同じものを一緒に制作することで、物を作る喜びを知ってもらい、参加者同士の交流を深めた。
講 師	高橋 ゆり
参加 延べ人数	26人

エ. 朗読サロン

開催日	12月10日～3月12日
会 場	多摩平交流センター、ほか
開催回数	全4回
内容他	公民館で活動をしている朗読サークルへ“発表の場を提供する”ことと同時に、小さな文字を読むのが段々と敬遠しがちな高齢者を対象に、名作を朗読で楽しんでもらい、参加者同士の交流を図ることができた。
講 師	朗読の会「うづき」、日野にじの会、のんど会、蘭陀夢
参加 延べ人数	64人

オ. サウルハープと弾き語りクリスマスコンサート

開催日	12月22日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	高齢者市民企画会議より企画された事業。 いずれも市内在住のソプラノ歌手と、マジックの方の共演。主に市内で活動されている事から、「ご近所に暮らしているちょっと素敵なお方」として紹介した。
講 師	飯野 英恵 、マジックH&M
参加 延べ人数	26人

カ. はじめてのスマホ（アンドロイド編）

開催日	1月21日～2月4日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全3回
内容他	スマートフォンのアンドロイド機器を所持している主に初心者の方を対象に、基本的な操作の仕方や、アプリケーションのインストール方法、Wi-Fi接続の仕方やセキュリティ対策について学んだ。
講師	ハッピー多摩 石塚 完
参加 延べ人数	25人

キ. はじめてのスマホ（ 아이폰編）

開催日	2月18日～3月4日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全3回
内容他	スマートフォンの 아이폰機器を所持している主に初心者の方を対象に、基本的な操作の仕方や、アプリケーションのインストール方法、Wi-Fi接続の仕方やセキュリティ対策について学んだ。
講師	ハッピー多摩 石塚 完
参加 延べ人数	24人

ク. からだいきいき ヨガ入門（オンライン配信）

開催日	3月3日～3月24日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全4回

内容他	新型コロナウイルス感染拡大により、企画段階からオンラインでの配信受講形式を検討した。 事前にオンライン受講者に手順を説明するなど、受講しやすくするための工夫を凝らした。
講師	公民館登録サークル 優優ヨガサークル
参加 延べ人数	47人（オンライン参加）

エ

ク. チェアエクササイズ講座

開催日	2月19日・3月2日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全2回
内容他	椅子を用いて自宅でも気軽に行えるエクササイズを学んだ。健康維持への関心の高さを感じられた。
講師	武田 瑞
参加 延べ人数	16人

コ. 今一度、ごみの処理について考えてみよう

開催日	3月23日
会 場	クリーンセンタープラスチック類資源化施設
開催回数	全1回
内容他	家庭から排出されたプラスチック類ごみがどのように処理されているかを確認し、適正排出の重要性等について学んだ。
講師	宮脇 健太郎
参加 延べ人数	25人

④ 青少年事業

ア. 子ども将棋指導対局

開催日	7月22日～11月11日、3月10日～3月24日(第2、第4水曜日)
会 場	中央公民館
開催回数	全10回 【他の期間は新型コロナウイルス感染拡大により中止】
内容他	公民館で活動している日野市将棋サークルの活動日に合わせ、子どもたちを呼び込んで、大人と子どもの将棋対局を実施。サークルの活性化と合わせ年配者と子どもの融合が始まった。
講 師	公民館登録サークル「日野市将棋サークル」
参加 延べ人数	191人

イ. 令和2年度郷土教育推進事業

開催日	4月1日～3月31日
会 場	日野第一小学校ほか
開催回数	動画3本を制作
内容他	コロナ禍でも郷土教育を継続させるために子どもたちの郷土教育教材として地域の資源を活用した動画を制作した。「オリンピックレガシー」「縄文時代の住居」「新選組のふるさと」
講 師	※協働スタッフ 生涯学習課・郷土資料館・新選組のふるさと歴史館職員
参加 延べ人数	10人

ウ. 加藤桃子女流棋士を招いて将棋教室

開催日	7月8日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	日本将棋連盟所属の実力ナンバー1の加藤桃子女流三段を招いて、将棋の楽しみ方や、将棋の戦法、技法などの実践を踏まえて紹介対局を実施し、将棋大盤を使い戦法などの講義と多面差しを実施しました。
講 師	加藤 桃子
参加 延べ人数	62人

エ. 一緒に踊ろう！日野ばやし体験講座

開催日	9月6日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	伝統芸能である日野囃子について実際に活動している日野囃子保存会から概要を聞き、実際の楽器に触ることで文化を学んだ。
講師	日野囃子保存会
参加 延べ人数	23人

オ. ?大瀧先生の理科教室「不思議なコマづくり」

開催日	9月19日
会 場	中央公民館 オンライン開催
開催回数	全1回
内容他	使わなくなった CD や DVD とビー玉でコマをつくる。模様によって視覚の効果が異なることを体験した。
講師	大瀧 雄一郎

参加 延べ人数	31人
------------	-----

カ．モーターカーを作ろう！走らせよう！

開催日	9月26日
会 場	中央公民館高幡台分室
開催回数	全1回
内容他	ものづくりの楽しさや、興味を抱いてもらうための取組みとして、官民一体となって進めることができた。
講師	連合東京金属部門連絡会
参加 延べ人数	25人

キ．勉強ルーム in 公民館

開催日	11月1日～ 夜間（午後6時から午後8時まで）
会 場	中央公民館
開催回数	夜間開館日（新型コロナウイルス感染対策により中止）
内容他	生徒の学習の場の提供。自宅などで学習場所の確保が難しい生徒や、友達と気軽に学習する場所として実施。
講師	中央公民館職員
参加 延べ人数	-

ク．おおきな紙に川を描こう

開催日	11月28日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	子育てサークル所属の講師から提案。おおきな紙に思い思いの川を描き、交流を深めた。
講師	大瀧 めぐみ
参加 延べ人数	16人

ケ．冬休み書初め講座

開催日	12月26日・12月27日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	書初めをバランスよく、上手に書けるように学ぶ講座。
講師	柴田 雪香
参加 延べ人数	29人

コ. いのちの授業「いつかきっと笑顔になれる」今西乃子氏による講演会

開催日	3月5日
会 場	日野第一中学校
開催回数	全1回
内容他	全国でいのちの授業を行っている児童文学作家今西乃子氏を招き、「捨て犬・未来」を通して「未来に向けての命のバトンタッチ」「子どもたちの気づき」を得る場となった。
講師	今西 乃子
参加 延べ人数	200人

サ. 津軽三味線にチャレンジ

開催日	3月28日
会 場	TreeHALL
開催回数	全1回
内容他	日野社会教育センターとの連携強化事業。若い子育て世代の家族が多く参加され心地良い雰囲気で開催できた。
講師	三好 のぶちか
参加 延べ人数	32人

シ. ～ふろしき王子におそわる～ 忍法風呂敷の術

開催日	3月30日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	日本人の暮らしや儀礼習慣の中で使用されてきた風呂敷を、若い世代に和文・文化・エコ・防災・遊びの観点から新しい使い方を再発見してもらい、風呂敷文化を「遊び心」を持って暮らしの中への取り入ることを学んだ。
講 師	横山 功
参加 延べ人数	17人

⑤ 青少年委託事業

第14回 ひのっ子シェフコンテスト

ア 事業の目的

子どもが食べることや食材の大切さを感じることで、食への関心を高め心身共に健康な子どもを育てることを目的とする。また、これに伴い多くの市民にも食の大

切さを伝える。

イ 事業の概要

子どもによる料理コンテストを実施し、金賞、銀賞、銅賞、努力賞、特別賞を決定した。

【対象】市内の小学校に通う小学4年生から6年生の個人若しくはグループ

【料理の条件】日野産野菜を活用（旬の食材）したメニューを、90分以内で4人分を調理する。（予算1,000円以内）

【審査方法】ア）地場野菜（日野産）の使用度

イ）オリジナリティ（アイデアや工夫）

ウ）給食にふさわしいか

エ）味

オ）見た目

カ）手際の良さ

【審査員】・審査委員長 鈴木 章生（服部栄養専門学校教授）

・ひのっ子シェフコンテスト実行委員会委員長

白尾 美佳（実践女子大学教授）

・日野市長 大坪 冬彦

・日野市教育員会教育長 米田 裕治

・子ども審査員（書類審査で落選した児童から選出2人）

【運営】ひのっ子シェフコンテスト実行委員会に委託（事業の企画・運営）して行う。

ウ 事業の成果

本選実施日 11月22日（日）

会場 = 中央公民館高幡台分室、教育センター体育館

応募数 = 28チーム（48人）

本選出場数 = 5チーム（9人）

周知方法 = 7月に案内を市内小学校へ配布

コンテスト結果

【金賞】・日野野菜の彩りスープご飯

【金賞】・彩り野菜のかぼちやの濃厚クリームパスタ

【銀賞】・ひのっ子ムサカ

【銀賞】・トマトとなっしーの相性バツグンスープ

【銅賞】・おい日～野♪うれ日～野♪「秋の夕焼けミルフィーユ」

【栄養士・調理員が選んだ特別賞】

・彩り野菜のかぼちやの濃厚クリームパスタ

【子ども審査員賞】

・彩り野菜のかぼちゃの濃厚クリームパスタ

エ 令和2年度の取り組み

- ア) 会場を第一中学校から中央公民館高幡台分室とした。
- イ) 「児童生徒同士が近距離で活動する調理実習のリスク」を回避する方策に努め、接触、密集、近距離での活動・向かい合っでの活動などを留意し実行した。
- ウ) 審査はオンライン中継で行った
- エ) 本選会場(調理室)は、必要最低限のサポート人数体制で行った。
- オ) 盛付に使用する皿などは使い捨てを使用するなど感染対策を徹底して行った上で実施。
- カ) 「栄養士と調理員が選んだ特別賞メニュー」を設けて、令和2年度中に市内各小・中学校で給食メニューとして取り入れた。栄養士や給食調理員(学校課)の協力により、公民館と学校との連携事業として充実を図った。
- キ) 給食調理員による給食パネル展を行った。

⑥ ひの市民大学

講座の企画・運営の検討から市民とともに行う「ひの市民大学」は、「いつでも どこでも だれもが学べる場」をキャッチフレーズに市民手作りによる大学として実施している。

ア. 日本の四季と月暦

開催日	10月1日
会 場	多摩平交流センター
開催回数	全1回
内容他	旧暦である月暦と年中行事について学んだ。
講師	加藤 淳子
参加 延べ人数	23人

イ. 19世紀末後半～世紀末幻想と象徴の画家たち～

開催日	10月2日～10月23日
会 場	中央公民館
開催回数	全4回
内容他	① 「モローとルドン～象徴の画譜～」 ② 「ロートレック～世紀末・モンマルトルの哀歓～」 ③ 「クリムト～世紀末ウィーンと日本～」 ④ 「ムンク～北欧・魂の叫び～」
講師	斉藤 陽一

参加 延べ人数	84人
------------	-----

ウ. 知って楽しいスコットランド

開催日	10月30日・11月13日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	①スコットランドの文化 ②スコットランドの文学
講師	木村 正俊
参加 延べ人数	40人

エ. こども陶芸

開催日	11月15日～12月25日
会 場	中央公民館
開催回数	全4回
内容他	①作陶 ②作陶 ③釉薬がけ ④講評会 (素焼き・本焼きは安全面を考慮し講師が実施)
講師	高木 彩子
参加 延べ人数	40人

オ. 地図入門

開催日	11月17日～12月8日
会 場	中央公民館
開催回数	全3回
内容他	①地図と記号～地図の見方とその記号～ ②地図と地形～地形図で観察するさまざまな地形～ ③地図と防災～ハザードマップの見方～
講師	今尾 恵介
参加 延べ人数	77人

カ. コズミック・フロント2

開催日	11月28日～12月6日
会 場	中央福祉センター
開催回数	全4回

内容他	①星の考古学でひもとく天の川銀河の歴史と元素の起源 ②おひさまの不思議～太陽研究の最前線～ ③ビックバンモデルを正しく理解する ④はやぶさ2、帰還
講師	石垣 美歩、清水 敏文、須藤 靖、阿部 新助
参加 延べ人数	82人

キ. おとなのための歴史教室～日野の災害史を学ぶ～

開催日	12月3日・12月10日
会 場	中央福祉センター
開催回数	全2回
内容他	①日野市の災害史 ②関東大震災と日野の人々の暮らしの変化
講師	秦 哲子、三代 綾
参加 延べ人数	47人

ク. 恐竜史研究の最前線と絶滅哺乳類の進化

開催日	1月14日～2月4日
会 場	中央公民館
開催回数	全4回
内容他	① 地球史、生命史、恐竜史研究 ② 世界の恐竜研究—最新事情— ③ 日本の恐竜研究1981年から現在まで ④ 哺乳類の起源と進化
講師	富田 幸光
参加 延べ人数	62人

ケ. 日野地域の中世荘園・公領と領主【中止】

開催日	1月15日・1月22日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	①荘園・公領の展開 ②荘園・公領制の成立
講師	峰岸 純夫
参加 延べ人数	一人

コ. 魅惑のスタンダード・ナンバー

開催日	3月5日～26日
-----	----------

会 場	中央公民館
開催回数	全4回
内容他	①グレンミラー・オーケストラ ②アンドレ・リュウ・オーケストラ ③ポール・モーリア・グラント・オーケストラ ④スクリーンテーマ曲
講師	蓑茂 栄利
参加 延べ人数	64人

サ. 日野で漁師！～浅川で副業！？鮎釣りを学ぶ～

開催日	3月13日
会 場	平山交流センター
開催回数	全1回
内容他	副業が注目される中で、多摩川水系で趣味ではなく、本格的な副業として営める人を育成する講座。
講師	多摩川漁業協同組合日野支部
参加 延べ人数	7人

シ. 英語を使える子になるにはどうしたら？

開催日	3月20日
会 場	中央公民館 オンライン開催
開催回数	全1回
内容他	子どもの英語力に不安を持つ親や、英語との付き合い方に迷っている中高生が、道筋と現在地を確認し、英語学習の下地を整え、一緒に学んでいく仲間に出会えるようなきっかけづくりの講座。
講師	丸山 佳代子、渡邊 涼
参加 延べ人数	8人

ス. はじめてのドローンプログラミングを体験！

開催日	3月27日
会 場	日野第五小学校
開催回数	全1回
内容他	小学校でのプログラミング教育が必修化されるという中で、ドローンのプログラミングを楽しみながら体験できる機会を提供することで、プログラミングに関心を持ってもらう講座。
講師	山口 修一
参加 延べ人数	24人

セ. 浅川こどもビジネススクール

開催日	3月28日
会 場	平山住宅内公園
開催回数	全1回
内容他	子どものうちからビジネスやお金の仕組みについて学ぶ講座。「ひらやま春まつり」内にて「ひのデリバリーカー」を実施することで実際の商売やお金の流れについて学んだ。
講師	酒井 可奈子、壺井 あゆみ
参加 延べ人数	4人

ソ. ひの市民大学連携コース（委託事業） 連携：実践女子大学

前期 食文化と発酵食品の深い関係

開催日	9月26日～11月7日
会 場	実践女子大学
開催回数	全5回
内容他	①発酵食品における微生物の役割 ②和食を支える日本の発酵調味料 ③発酵食品と健康 ④世界のお酒の歴史と文化 ⑤日本のお酒の歴史と文化
講師	秋田 修
参加 延べ人数	126人

後期 人生に、もう遅いはない

開催日	2月9日～2月18日
会 場	オンライン開催のため、なし
開催回数	全5回
内容他	①私がここに至った経緯 ②「創造」を模索する日々 ③ある日、激変した人生 ④誰も取り残さない「デジタル改革」へのお手伝い ⑤コロナとA I の時代を生き抜くために
講師	若宮 正子
参加 延べ人数	100人

連携：明星大学

“エコの技術”－SDG’sを目指して－

開催日	2月27日～3月27日
会 場	オンライン開催のため、なし
開催回数	全5回
内容他	①「エコ」で見直される水力発電のおはなし ②カーボンニュートラル2050、その道筋と蓄電技術 ③石油を使わないエンジン ースターリングエンジンー ④バブルで地球を救う！？船舶の抵抗低減技術の最先端 ⑤エコな電車、事故を救いたい
講師	石田 隆張、伊庭 健二、齊藤 剛、熊谷 一郎、宮本 岳史
参加 延べ人数	84人

⑦ 居場所づくり

ア．夏休みミニミニ縁日

開催日	8月22日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、夏休み期間が短縮し、外出自粛を余儀なくされる子どもたちに向け、映画会やボールすくいなどを開催した。ご近所会議（日野市ボランティアセンター・日野図書館・ひの児童館・中央公民館）主催。
参加 延べ人数	59人

イ．居場所こむこむ

開催日	2月25日・3月18日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	公民館サークルの子育て世代の方から、「子どもの居場所づくり」を行いたいとの申し出を受け、実現した。子どもたちの憩いの場として、宿題を見たり、一緒に遊ぶ時間。
講師	こどもへのまなざしママ会、サークルどーなつ
参加 延べ人数	40人

⑧ 公民館アウトリーチ事業

ア．一中地区モデル事業

蚕でつなぐプロジェクト ～一緒に蚕のこと学びませんか～

開催日	5月13日～6月21日
会 場	中央公民館、仲田の森蚕糸公園
開催回数	全4回
内容他	日野本町の地域資源を活かし、地域で活動している蚕糸の会・日野の協力の下、桑と蚕を学んだ。
講師	蚕糸の会・日野
参加 延べ人数	93人

イ. 一中地区モデル事業

蚕でつなぐプロジェクト ～一緒に蚕のこと学びませんかVer. 2～

開催日	9月27日・10月4日
会 場	中央公民館
開催回数	全2回
内容他	元宮内庁職員で蚕を育てることに携わっていた市内在住の講師を招き、特別な繭である「皇室小石丸」の飼育に関する講座。 日野市初登録指定文化財である「桑ハウス」に係ることを、桑ハウスの復旧に携わっていた一級建築士を招いて学んだ。
講師	伊藤 稔、太田 陽子
参加 延べ人数	42人

ウ. 一中地区モデル事業

蚕でつなぐプロジェクト ～糸取り編～

開催日	12月5日
会 場	中央公民館
開催回数	全1回
内容他	日野本町の地域資源を生かした居場所づくりを目指し、蚕糸の会・日野で育てた繭と自分で育てた繭からの糸取り体験、角真綿づくり体験を行った。
講師	蚕糸の会・日野
参加 延べ人数	26人

エ. 一中地区モデル事業

蚕でつなぐプロジェクト ～一緒に蚕のこと学びませんかVer. 3～

開催日	2月13日
会 場	仲田の森蚕糸公園（桑ハウス）
開催回数	全1回
内容他	日野市初登録有形文化財桑と蚕の研究所であった「第一蚕室」（桑ハウス）のことを学び、日野桑園のなごりを見学した。
講師	蚕糸の会・日野

参加 延べ人数	18人
------------	-----

オ．二中地区モデル事業

御料林からみんなの森へ

開催日	講師からの申し出により中止
会 場	UR多摩平の森
開催回数	－
内容他	歴史ある貴重な緑地がどうして残れたのか、その歴史について学ぶ。
講師	小木曾 裕
参加 延べ人数	－

カ．三中地区モデル事業

ほしぞら映画会

開催日	10月22日
会 場	高幡台団地74号棟集会所前
開催回数	全1回
内容他	映画会を通して地域住民の親睦を図るため「野菊の墓」を団地内で上映した。
講師	第2層協議会
参加 延べ人数	46人

キ．四中地区モデル事業

マリンバと世界の珍しい民族楽器

開催日	12月12日
会 場	東京光の家キッチン&カフェ・カナン
開催回数	全1回
内容他	第四中学校地域在住のプロ演奏家に依頼し、打楽器系音楽を聴く場を創造した。地域の会場を使用することで身近で良い文化に触れることができた。
講師	ポロンタン
参加 延べ人数	29人

ク．三沢中地区モデル事業

中央公民館×第八小学校

「星空ツアーに出かけよう！」

開催日	12月13日
会 場	第八小学校
開催回数	全1回

内容他	第八小学校卒業生でもある講師をお招きし、登山体験や星空について講義し、小学生に興味を持ってもらえるような講座となった。
講師	村山 孝一
参加 延べ人数	69人

ケ．七生中地区モデル事業

「震災を忘れるな～その時自分と家族を守るために」

開催日	2月20日
会 場	中央福祉センターほか
開催回数	全1日
内容他	コロナ禍のもと震災対策や避難所運営について苦慮することが予想されるため講座を開催。 オンライン併設
講師	日野消防署、市防災安全課
参加 延べ人数	48人

コ．大坂上中地区モデル事業

子どものための居場所マップ

開催日	新型コロナウイルス感染症対策により中止
会 場	大坂上中地区
開催回数	－
内容他	子どもたちが地域に親しみを覚え、地域の人たちと交流できるツール「居場所マップ」を制作する。
講師	すみれ塾、日野市ボランティアセンター
参加 延べ人数	－

サ．平山中地区モデル事業

平山地域の歴史を知ろう！

開催日	3月6日
会 場	平山交流センター
開催回数	全1回
内容他	住んでいる地域の歴史を古代～近現代まで学び、実際に史跡を歩き、まちの昔の姿に思いをはせ、より地域を理解する講座。
講師	秦 哲子
参加 延べ人数	11人

⑨ 障害者事業

ア．少年学級 ＜委託事業＞

市内の特別支援教育を受けている小・中学生を対象に、月一回定例会を実施し、ボランティアと一緒に遊び、学んでいる。また、第1土曜日（年8回）には、リトミック教室を開催。運営は、「日野市少年学級親の会」。

ボランティアは、近隣大学のボランティアサークルが中心となり、活動に参加している。（今年度はコロナウイルス感染症対策により不参加となっている）

ア) 委託先 日野市少年学級親の会 会長 五十川 真紀

イ) 委託料 1,503,360円

ウ) 運 営 日野市少年学級親の会

会長 五十川 真紀

副会長 黒田 美穂 松尾 章子

会計 服部 有貴子 佐藤 幸子

書記 伊野波 千春 阿部 裕仁

庶務 斉野 美紀

会計監査 小幡 さやか

エ) リトミック教室活動内容

開催日	4月4日～3月6日 午前9時45分～午前11時45分
会 場	中央公民館
開催回数	全8回 うち1回はコロナウイルス感染症対策により中止
講 師	山崎 詩奈子
参加 延べ人数	延べ117人

オ) 定例会活動内容

月 日	内 容	会 場	参加 人数
4月19日	こあらんど（中止）	中央公民館高幡台分室	-
4月21日	総会（中止）	中央公民館高幡台分室	-
5月10日	開級式（中止）	中央公民館高幡台分室	-
6月14日	みんなの遊・友ランド（中止）	市民の森ふれあいホール	-
6月14日	オンライン例会	各家庭	34
7月26日	工作例会（せっけん作り）	市民の森ふれあいホール	31
7月28日	合宿説明会（中止）	中央公民館高幡台分室	-
7月28日	保護者親睦交流会	中央公民館高幡台分室	14
8月21日 ～22日	合宿（中止）	大成荘（山梨県）	-
8月21日	映画観賞会	立川シネマシティ	32
9月13日	ボウリング	立川スターレーン	59
10月11日	オンライン例会	各家庭	38
11月15日	サッカー教室	中央公民館高幡台分室	31
12月6日	クリスマス会	中央公民館・オンライン	53

2月14日	工作例会（陶芸）（中止）	中央公民館高幡台分室	-
3月27日	バスハイク	八景島	22
3月27日 ～28日	バスハイク	大成荘（山梨県）	28

10回342人

イ．青年・成人学級 ＜委託事業＞

青年・成人学級は「健康な青年と触れ合う場所が欲しい」という障害を持った青年達の願いを実現するために、昭和50年に「日野市障害者青年学級」として誕生した。スローガンとして「ともに生き、ともに学ぶ」を掲げ、地域に根ざした活動が続け、現在に至る。

この学級の特色は、16歳以上の障害を持つ青年も持たない青年も一緒になって、自分達の学級の企画・運営を行っている点にある。現在さまざまな障害を持った青年達と学生や社会人など多彩な青年達が、定例会と分科会に参加し活動している。

平成5年度から地域で生活する成人期の障害者を対象に、衣食住働などを学習する分科会「生活を考える」が始まり、平成9年度には成人講座として交流中心の青年学級とは別に活動するようになる。対象は25歳以上の希望者で、地域での生活についてさまざまな問題を学習する場を提供し、生き生きと暮らす力を学ぶことを意識してプログラムを組んでいる。平成12年度より、成人講座から成人学級へ変更し、平成28年度から団体名も新しく「日野市青年・成人学級」となり、積極的な活動を続けている。

ア) 委託先 日野市障害者青年・成人学級仲間の会 代表 木村 美子

イ) 委託料 800,000円（契約変更による予算減額）

ウ) 運 営 青年・成人学級運営委員会役員

青年学級担当 運営委員長 山本 詩織

会 計 小田 俊介

成人学級担当 熊谷 亜由美

各学級の各定例会の前に運営委員会を開き、企画・準備を行った。

エ) 青年学級定例会活動内容

開催日	内 容	会 場	参加人数
7月11日	暑中見舞い	中央公民館	58
9月	往復はがきを用いた組み合わせ絵の工作（第33回公民館まつり展示部門において、12月12日～25日の間談話室展示）	中央公民館	58
11月15日	開級式	中央公民館	42
12月10日	年賀状	中央公民館	58
12月20日	定例会	中央公民館	38

開催日	内 容	会 場	参加 人数
3月20日	修了証作成・送付	中央公民館	95

6回 延べ349人

オ) 成人学級活動内容

開催日	内 容	会 場	参加 人数
11月15日	開級式	中央公民館	7
3月20日	修了証作成・送付	中央公民館	20

2回 延べ27人

カ) 分科会活動内容

A. ワープロ

開催日	11月27日・12月11日（4～10月、1～3月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）		
会 場	中央公民館		
開催回数	全2回		
講師	栗原 亜希子 ほか		
参加 延べ人数	4人		

B. 料理

開催日	11月15日（6～10月、1～2月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止）		
会 場	中央公民館		
開催回数	全1回		
講師	鈴木 直美		
参加 延べ人数	13人		

C. リズム体操

開催日	6月～3月 第4日曜日 午後1時30分～2時30分		
会 場	中央公民館、市民の森ふれあいホール		
開催回数	全0回 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止		
講師	—		
参加 延べ人数	—		

D. コーラス

開催日	6月～12月 第4土曜日 午後1時30分～2時30分		
-----	----------------------------	--	--

会 場	中央公民館、市民会館小ホール
開催回数	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止
講師	樋口 周子
参加 延べ人数	—

E. パンづくり

開催日	6月～2月 毎月土曜日 午後1時30分～2時30分
会 場	多摩平の森ふれあい館
開催回数	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止
講師	—
参加人数	—

2 公民館利用状況

(1) 中央公民館

① 目的別利用数（年間）

公民館事業または 中央公民館使用分		市民グループ （文化関係）		市民グループ （体育関係）		市役所関係		その他		合 計	
回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
447	4,028	1,540	8,692	55	463	34	262	0	0	2,076	13,445

※ 陶芸窯利用 25回 登録団体 6サークル（令和2年8月～5団体）

② 目的別利用数（月別）

月	公民館事業または 中央公民館使用分		市民グループ （文化関係）		市民グループ （体育関係）		市役所関係		その他		合 計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	4	12	0	0	4	12
6	13	85	116	729	9	102	2	16	0	0	140	932
7	23	243	177	1,042	5	29	0	0	0	0	205	1,314
8	14	112	150	837	9	51	5	45	0	0	178	1,045
9	27	280	193	1,180	2	20	4	45	0	0	226	1,525
10	45	477	232	1,393	2	10	3	30	0	0	282	1,910
11	107	1,184	182	1,059	4	41	7	54	0	0	300	2,338
12	77	585	184	968	1	7	1	3	0	0	263	1,563
1	56	468	83	377	5	35	2	36	0	0	146	916
2	27	198	107	492	7	58	4	10	0	0	145	758
3	58	396	116	615	11	110	2	11	0	0	187	1,132
計	447	4,028	1,540	8,692	55	463	34	262	0	0	2,076	13,445

③ 部屋別利用率（月別）

月	区分	講座室 A	講座室B	視聴覚室	調理実習室	小会議室	実習室	ホール	保育室
4	午前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	午後	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

月	区分	講座室 A	講座室B	視聴覚室	調理実習室	小会議室	実習室	ホール	保育室
5	午前	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0
	午後	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	午前	60.0	56.0	40.0	0.0	12.0	64.0	48.0	0.0
	午後	32.0	32.0	52.0	0.0	16.0	36.0	20.0	0.0
	夜間	28.0	24.0	4.0	0.0	4.0	8.0	24.0	0.0
7	午前	72.0	56.0	48.0	0.0	20.0	68.0	56.0	0.0
	午後	60.0	56.0	44.0	0.0	12.0	72.0	56.0	0.0
	夜間	64.0	40.0	4.0	0.0	0.0	48.0	44.0	0.0
8	午前	57.7	46.2	38.5	0.0	15.4	46.2	42.3	0.0
	午後	61.5	53.8	42.3	0.0	19.2	50.0	34.6	0.0
	夜間	50.0	46.2	15.4	0.0	0.0	23.1	42.3	0.0
9	午前	68.0	72.0	52.0	4.0	12.0	92.0	56.0	4.0
	午後	56.0	56.0	52.0	4.0	24.0	64.0	72.0	0.0
	夜間	48.0	40.0	28.0	0.0	12.0	40.0	48.0	0.0
10	午前	74.1	70.4	74.1	22.2	40.7	85.2	74.1	7.4
	午後	70.4	74.1	70.4	3.7	40.7	74.1	63.0	0.0
	夜間	48.1	40.7	14.8	0.0	0.0	40.7	55.6	0.0
11	午前	83.3	66.7	75.0	29.2	50.0	95.8	75.0	8.3
	午後	87.5	83.3	75.0	20.8	58.3	91.7	79.2	0.0
	夜間	66.7	54.2	29.2	8.3	12.5	45.8	54.2	0.0
12	午前	83.3	75.0	75.0	45.8	20.8	87.5	75.0	8.3
	午後	58.3	54.2	58.3	20.8	33.3	75.0	62.5	0.0
	夜間	66.7	62.5	41.7	4.2	0.0	29.2	58.3	0.0
1	午前	66.7	62.5	29.2	8.3	12.5	62.5	41.7	8.3
	午後	66.7	50.0	41.7	0.0	20.8	62.5	33.3	0.0
	夜間	8.3	8.3	12.5	0.0	0.0	8.3	4.2	0.0
2	午前	86.4	63.6	54.5	0.0	22.7	59.1	59.1	13.6
	午後	59.1	36.4	54.5	0.0	36.4	81.8	31.8	0.0
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	午前	60.0	48.0	40.0	12.0	36.0	64.0	52.0	24.0
	午後	84.0	72.0	60.0	4.0	32.0	60.0	44.0	4.0
	夜間	16.0	16.0	8.0	0.0	0.0	4.0	8.0	0.0
年間計	午前	59.3	51.5	43.8	10.1	20.2	60.9	48.1	6.1
	午後	52.9	47.5	45.8	4.4	24.2	55.2	41.4	0.3
	夜間	33.3	27.9	13.1	1.0	2.4	20.9	28.6	0.0

(使用日数／開館日数＝%)

(2)中央公民館高幡台分室

① 目的別利用数 (年間)

公民館事業または中央公民館高幡台分室使用分		市民グループ (文化関係)		市民グループ (体育関係)		市役所関係		その他		合 計	
回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
151	1,325	1,515	7,351	255	1,619	122	709	45	255	2,088	11,259

※陶芸窯利用 25回 登録団体 7サークル

② 目的別利用数（月別）

月	公民館事業または中央公民館高幡台分室使用分		市民グループ（文化関係）		市民グループ（体育関係）		市役所関係		その他		合 計	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
4	5	0	166	0	16	0	3	0	6	0	196	0
5	0	0	151	0	16	0	0	0	0	0	167	0
6	4	33	80	412	22	133	3	20	3	22	112	620
7	18	142	124	645	21	123	17	83	1	9	181	1,002
8	4	24	95	531	15	105	20	113	8	52	142	825
9	20	174	109	745	20	145	16	114	8	49	173	1,227
10	12	88	142	956	25	194	18	113	4	21	201	1,372
11	49	567	148	993	25	178	15	110	3	25	240	1873
12	11	89	124	834	28	200	12	79	4	19	179	1,221
1	2	27	125	710	20	176	4	11	1	9	152	933
2	15	105	115	700	19	163	3	7	3	21	155	996
3	11	76	136	825	28	202	11	59	4	28	190	1,190
計	151	1,325	1,515	7,351	255	1,619	122	709	45	255	2,088	11,259

③ 部屋別利用率（月別）

月	区分	実習室	和室	講座室1	講座室2	講座室3	講座室4	講座室5	講座室6
4	午前	36.0	68.0	68.0	64.0	40.0	36.0	48.0	24.0
	午後	24.0	36.0	60.0	72.0	36.0	24.0	60.0	28.0
	夜間	0.0	28.0	20.0	0.0	4.0	4.0	4.0	0.0
5	午前	41.7	62.5	58.3	20.8	33.3	29.2	54.2	29.2
	午後	25.0	20.8	66.7	41.7	54.2	29.2	50.0	33.3
	夜間	4.2	4.2	12.5	0.0	16.7	4.2	4.2	0.0
6	午前	0.0	76.0	44.0	68.0	24.0	24.0	12.0	20.0
	午後	0.0	28.0	12.0	60.0	32.0	20.0	16.0	8.0
	夜間	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	午前	0.0	64.0	60.0	64.0	48.0	64.0	72.0	48.0
	午後	0.0	16.0	24.0	56.0	32.0	44.0	72.0	32.0
	夜間	0.0	4.0	0.0	0.0	20.0	4.0	0.0	0.0
8	午前	0.0	65.4	42.3	42.3	34.6	38.5	57.7	11.5
	午後	0.0	11.5	7.7	50.0	50.0	34.6	61.5	11.5
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	26.9	0.0	0.0	0.0
9	午前	0.0	60.0	48.0	48.0	60.0	60.0	72.0	24.0
	午後	0.0	16.0	20.0	56.0	44.0	44.0	64.0	24.0
	夜間	0.0	0.0	8.0	0.0	28.0	8.0	8.0	0.0
10	午前	22.2	70.4	66.7	55.6	44.4	37.0	66.7	44.4
	午後	14.8	25.9	44.4	55.6	29.6	18.5	74.1	37.0
	夜間	0.0	0.0	3.7	0.0	29.6	0.0	3.7	0.0
11	午前	37.5	75.0	83.3	75.0	54.2	58.3	66.7	41.7
	午後	29.2	25.0	87.5	75.0	41.7	50.0	75.0	33.3

	夜間	16.7	4.2	12.5	4.2	33.3	12.5	4.2	4.2
12	午前	20.8	70.8	66.7	58.3	54.2	45.8	54.2	37.5
	午後	16.7	29.2	70.8	58.3	33.3	25.0	50.0	29.2
	夜間	0.0	0.0	4.2	0.0	16.7	4.2	0.0	0.0
1	午前	4.2	66.7	66.7	50.0	37.5	41.7	45.8	29.2
	午後	0.0	0.0	66.7	62.5	33.3	37.5	58.3	29.2
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0
2	午前	0.0	78.9	89.5	68.4	47.4	63.2	52.6	26.3
	午後	0.0	15.8	94.7	78.9	42.1	63.2	68.4	26.3
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	午前	4.0	68.0	64.0	64.0	52.0	60.0	64.0	28.0
	午後	0.0	8.0	60.0	64.0	48.0	64.0	76.0	28.0
	夜間	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0
年間計	午前	14.0	68.6	62.5	56.3	44.0	46.1	55.6	30.4
	午後	9.2	19.5	49.8	60.4	39.6	37.2	60.4	26.6
	夜間	1.7	3.8	5.1	0.3	15.7	3.4	2.0	0.3

(使用日数／開館日数＝%)

3 第33回公民館まつりWithコロナ

日頃、中央公民館を中心に活動している各団体・サークルが一年間の活動の成果を作品の展示、音楽鑑賞、舞台、模擬店や体験コーナーを通し、広く市民の皆さんに楽しんでいただいている公民館まつり。令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、例年とは違うオンラインを活用した形での開催となりました。

公民館×若い世代のシンポジウムや音楽サークルのライブ配信を行い、コロナ禍でもみなさんと楽しい時間を共有することができました。

開催日	11月7日～2月28日 展示は3月12日まで
内容	・PR動画撮影 ・展示（絵画、写真、陶芸ほか） ・オンラインイベント（11月8日）

延べ参加者 100人 主催 公民館まつり実行委員会

4 パネル・ショーケース展示状況

中央公民館の談話室内にあるパネル・ショーケースは、公民館を利用する自主グループ等が日頃の活動成果の作品を展示し、発表する場となっている。また、公民館を訪れる方々に対し、広く社会教育活動への関心を与えている。

展示団体・内容

楽しいデジカメクラブ（写真）、ひの切り絵サークル（切り絵）、きつつき会（木彫り）、アクリエ会（アクリル画）、仲田小学校PTA（絵封筒）、手編みの会ひつじ（あみもの）、中央公民館（アートかるた・ハロウィーン・つるし雛）

5 公民館保育室

昭和60年度に開設し、専用保育室による保育は平成3年度から始まる。対象は市内在住の1歳6カ月から就学前までの幼児で、公民館主催事業の参加者または年間保育登録をしているグループに保育援助をしている。

親たちが学習・活動をしている間、子どもたちは公民館保育者とともに保育室で過ごしている。天気の良い日には近くの公園にも出かけ、年齢の違う子どもたちとの遊びの中で、思いやりや協力の心も生まれている。親も子ども学ぶ機会として「親・保育者・職員」のコミュニケーションを図っている。

公民館保育室の利用状況

保育援助認定グループ

団 体 名	利用回数	利用延人数
ママのポケット(手芸)	0	0
はだかんぼう(調理)	7	30
ゆるゆる手作りの会(手芸)	0	0
いるか(子育て学習)	0	0
A C T(子育て学習)	0	0
子どもへのまなざしママ会(子育て学習)	1	1
N P(子育て学習)	0	0
ハモレレ	5	6
さくらパーク	0	0
外国人のための日本語教室(委託事業)	0	0
公民館保育付講座	2	3
計	15(回)	40(人)

※合同保育を含む 保育援助は事前申込制で、1歳6カ月から就学前まで

6 公民館だより

編集は市民委員の協力により行われている。公民館の活動や事業を紹介するとともに、地域への関心を高めていくことを目的としている。年4回発行。

A3サイズ2つ折り全4ページで、市内の主な公共施設等で配布している。

号 (発行日)	仕 様	主 な 内 容
------------	-----	---------

第164号 (6. 20)	A3判二つ折り4ページカラー刷り 2,000部	・新型コロナウイルスと公民館 公民館運営審議会委員長 宮崎 竹子 ・これからの新しい公民館に向かって ・新入職員を紹介します ・田んぼの学校が開校しました！ ・「公民館は多文化共生社会を応援していきます！」 ・「日野市障害者差別解消推進条例」が施行されました！ ・中央公民館の再開についてのお知らせ ・コラム「ねこの足跡」ほか
第165号 (9. 23)		・サークルの仲間たち「松川アトリエ」 ・日野の風景「王手は日野の万願寺」 ～江戸の守りは多摩川で～ ・「子供たちの“Withコロナ”」 ・平和事業「一枚のはがき」 ・編集委員に仲間が増えました！ ・コラム「ねこの足跡」ほか
第166号 (1. 30)		・サークルの仲間たち コロナ禍におけるサークル活動についてのアンケート調査結果 ・日野の風景「田んぼの学校 南平会場」 ・第33回公民館まつりを実施しています！！ ・公民館が予備的避難所になりました！ ・コラム「ねこの足跡」ほか
第167号 (3. 31)		・日野市少年学級 令和2年12月例会 「クリスマス会」をオンラインで開催しました！ ・サークルの仲間たち 日野国際友好クラブ主催「外国人のための日本語教室」 ・退任のごあいさつ 日野市中央公民館 館長 佐藤 早苗 ・Wi-Fi、はじめました！ ・日野市中央公民館公式HPが移動します ・コラム「ねこの足跡」ほか

○日野市中央公民館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日
制定

(目的)

第1条 この要綱は、社会教育法(昭和24年法律第207号)第32条に規定する、公民館の運営の状況に関する評価等の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市中央公民館(以下「公民館」という。)は、毎年1回、公民館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 公民館は、公民館運営審議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 公民館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 公民館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 公民館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、公民館管理係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、公民館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する。

第28期公民館運営審議会委員名簿

委員長	須崎 奈緒美	社会教育の関係者
副委員長	丹間 康仁	学識経験者
委員	畔上 栄輔	公募による市民
委員	樋口 周子	社会教育の関係者
委員	南雲 成二	学識経験者
委員	今尾 恵介	学識経験者
委員	松永 式子	学校教育の関係者
委員	藤枝 恵美	家庭教育の向上に資する活動を行う者
委員	斉野 美紀	公募による市民
委員	諸星 智子	社会教育の関係者
任期	自 令和2年7月 1日	
	至 令和4年6月30日	

《参考》令和元年度 令和２年度 講座等参加人数

	令和元年度	令和２年度
成人事業	5,721	2,986
講座	1,416	668
バラエティサロン	336	19
公民館映画会	280	51
委託・公民館平和事業	208	287
委託・外国人のための日本語教室	2,991	1,463
委託・田んぼの学校	490	498
高齢者事業	723	378
講座	723	378
青少年事業	1,194	684
講座	1,129	636
委託・ひのっ子シェフコンテスト	65	48
市民大学	1,731	872
講座	1,285	562
大学連携委託	446	310
障害者事業	1,797	852
委託・少年学級	850	459
委託・障害者青年・成人学級	947	393
イベント	9,511	100
公民館まつり	3,000	100
高幡台分室まつり	500	中止
ひの아트フェスティバル	5,700	中止
秋フェス（サークル交流会）	311	中止
居場所づくり	488	99
ゆる・カフェ・時間（談話室活用）	488	99
公民館アウトリーチ事業	162	382
総計	21,327	6,353

令和３年度
日野市中央公民館の運営の状況に関する評価書
(令和２年度事業)

令和３年９月
日野市中央公民館

〒191-0011

東京都日野市日野本町七丁目５番地の２３

電話 ０４２-５８１-７５８０ ＦＡＸ ０４２-５８１-２１１０